



Windows

Generic ファクストライバー

ユーザーズガイド

もくじ

はじめに	2
マニュアルの使いかた	3
マニュアルの表記	4
免責事項	5
著作権	6
商標	7
このドライバーについて	9
ご使用の前に	12
ファクス送信する	14
コンピューターからファクス送信する	15
ファクス送信で使用できる通信方法について	20
カバーシートを付ける	21
親展送信を設定する	24
送信履歴を管理する	26
デフォルト設定を変更する	28
ドライバーのアドレス帳を編集する	31
ドライバーのアドレス帳に個人のアドレスを追加する	32
ドライバーのアドレス帳にグループを追加する	33
アドレス帳を登録する	35
アドレス帳の種類について	36
ドライバーのアドレス帳をインポート/エクスポートする	38
デバイスやほかのアプリケーションのアドレス帳を登録する	40
お気に入りを編集する	46
お気に入りを登録する	47
お気に入り一覧を編集する	48
ドライバーとデバイスを連携させる	51
デバイス情報を設定する	52
認証機能を設定する	55
ユーザー名を設定する	57
設定項目一覧	60
シート共通項目	61
[宛先選択] シート	63

[宛先入力] シート	70
[特別] シート	74
[送信イメージ] シート	76
[デバイスの設定] シート	77
[共有カバーシート] シート	81

トラブルシューティング 83

デバイス情報取得機能/認証機能を使用できない	84
アドレス帳を参照/編集できない	86

カスタマイズしたカバーシートの作成 88

Cover Sheet Editor について	89
カバーシートのフィールドとは	90
複数の相手先情報をカバーシートに表示する	91
[ファイル] メニュー (Cover Sheet Editor)	93
[編集] メニュー (Cover Sheet Editor)	94
[表示] メニュー (Cover Sheet Editor)	96
[挿入] メニュー (Cover Sheet Editor)	98
[描画] / [レイアウト] メニュー (Cover Sheet Editor)	100

はじめに

はじめに	2
マニュアルの使いかた	3
マニュアルの表記	4
免責事項	5
著作権	6
商標	7

はじめに

- ▶ マニュアルの使いかた(P. 3)
- ▶ 免責事項(P. 5)
- ▶ 著作権(P. 6)
- ▶ 商標(P. 7)

マニュアルの使いかた

このマニュアルを使用するにあたり、知っておく必要のある内容を説明します。

▶ **マニュアルの表記(P. 4)**

マニュアルの表記

このマニュアルで使用しているマークや、設定項目について説明します。

マークについて

このマニュアルでは、操作上必ず守っていただきたい事項や操作の説明に、次に示すマークを付けて説明しています。



- 操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。誤った操作によるトラブルや故障、物的損害を防ぐために、必ずお読みください。



- 操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

設定項目について

このマニュアルでは、コンピューター画面に表示される設定項目名称を、次の例のように表記しています。

例：

[送信]

[OK]

免責事項

本書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

キャノン株式会社は、ここに定める場合を除き、市場性、商品性、特定使用目的の適合性、または特許権の非侵害性に対する保証を含め、明示的または暗示的にかかわらず本書に関していかなる種類の保証を負うものではありません。キャノン株式会社は、直接的、間接的、または結果的に生じたいかなる自然の損害、あるいは本書をご利用になったことにより生じたいかなる損害または費用についても、責任を負うものではありません。

著作権

Copyright CANON INC. 2023

キヤノン株式会社の事前の書面による承諾を得ることなしに、いかなる形式または手段（電子的、機械的、磁氣的、光学的、化学的、手動、またはその他の形式／手段を含む）をもっても、本書の全部または一部を、複製、転用、複写、検索システムへの記録、任意の言語やコンピューター言語への変換などを行うことはできません。

商標

本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

All other trademarks are the property of their respective owners.

このドライバーについて

このドライバーについて 9

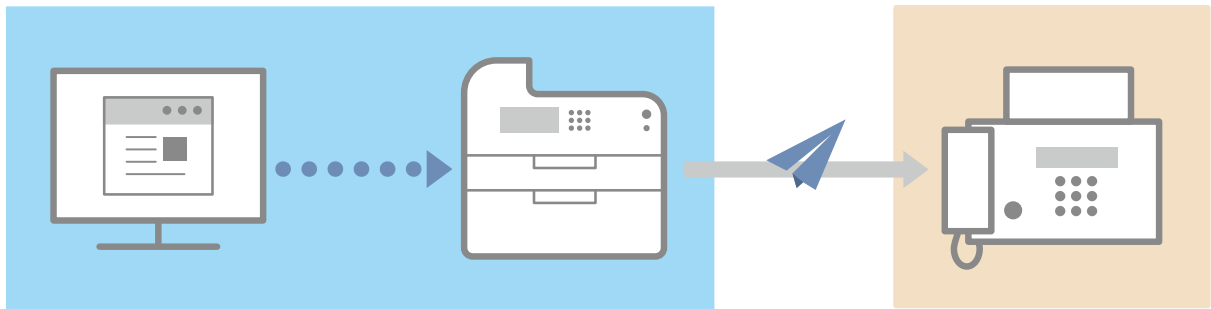
このドライバーについて

このドライバーは、キヤノン製オフィス向け複合機に対応した Windows 用のファクスドライバーです。

特長

コンピューターで作成した文書や画像を、印刷することなくファクス送信できます。

- 手間を省き、印刷コストの軽減へ
- 画像や細かい文字を、きれいに送信



おもな機能

カバーシートの添付

送信データに、カバーシート（送付状）を添付できます。ドライバーにあらかじめテンプレートが用意されています。カバーシートに記載する項目は、カスタマイズできます。複数の宛先に送信する場合には、宛先に応じた情報を記載できます。

アドレス帳による宛先管理

よく使う宛先をアドレス帳に登録すると、宛先指定が簡単になります。登録した内容は、CSV 形式のファイルなどにエクスポートできます。また、他のアプリケーションで使用しているアドレス帳をインポートすることもできます。

送信データの詳細設定

用紙サイズや、1 枚の用紙に配置するページレイアウトを設定できます。

送信時刻の指定や、送信結果のメール通知なども設定できます。

セキュリティの強化

誤送信を防ぐため、指定した宛先を確認入力するように設定できます。また、ログイン認証機能と送信イメージ保存機能により、「いつ」「誰が」「何を」「どこに」送信したかを記録できます。

F コード機能や ISDN サブアドレス機能に対応している場合は、宛先のメモリーボックスへ送信することもできます。



このドライバーについて

- ローカル接続またはプリンター共有している場合、Canon Driver Information Assist Service をインストールすれば、デバイス情報を取得することができます。このマニュアルでは、Canon Driver Information Assist Service を使用してデバイス情報を取得する機能を、デバイス情報取得機能と呼びます。

ご使用前に

ご使用前に 12

ご使用前に

- 使用するデバイスが対応している機能を有効にしてファクス送信するには、デバイスのオプションを設定しておく必要があります。デバイスのオプションは、[デバイスの設定] シート> [デバイス情報取得] で取得できますが、取得できない場合は、[デバイスの設定] シートで手動で設定してください。
- デバイスによっては、ドライバーからファクス送信されたジョブは、PS プリントサーバーログには記載されません。また、NetWare 経由で送信されたジョブの場合は、ログ情報が正しく記載されないことがあります。
- 使用するデバイスに適していないファクスボードと、使用する回線に適していない回線の双方を選択すると、異なる回線で送信されることがあります。
- 使用するデバイスが対応していない機能をドライバーで設定すると、意図しない送信結果となることがあります。また、ファクス送信できない原因となることもあります。

次にその例を示します。

- 使用するデバイスが、発信元指定、送信時刻指定、F コード機能、ISDN サブアドレス機能、認証機能、または [一度に指定できる宛先数を 2000 件にする] の機能に対応していないのにも関わらず、それらの機能を使用するように設定している。
- 使用するデバイスに適していない各種認証モードや IP ファクスの通信モードを設定している。
- 最新版のドライバーは、キヤノンホームページに掲載されます。動作環境などをご確認の上、必要に応じてダウンロードしてください。
キヤノンホームページ：<https://canon.jp/>
- 以下の条件によって、使用できる機能が異なる場合があります。
 - ご使用のデバイスとその設定状況
 - デバイスのファームウェアのバージョン
 - デバイスのオプション構成
 - ドライバーのバージョン
 - ご使用のコンピューターの環境
- Windows ストアアプリからファクス送信する場合は、ドライバーのファクス送信設定画面を表示できないため、設定できる機能が制限されます。
- 使用する OS で、国または地域に関する設定を変更しないでください。アドレス帳の表示に不具合が生じる場合があります。
- マニュアル内の画面表示、手順など記載内容が実際の表示と異なる場合があります。
- このマニュアルでは、Windows 11 の場合の例を説明しています。

ファクス送信する

ファクス送信する	14
コンピューターからファクス送信する	15
ファクス送信で使用できる通信方法について	20
カバーシートを付ける	21
親展送信を設定する	24
送信履歴を管理する	26
デフォルト設定を変更する	28

ファクス送信する

- ▶ コンピューターからファクス送信する(P. 15)
- ▶ ファクス送信で使用できる通信方法について(P. 20)
- ▶ カバーシートを付ける(P. 21)
- ▶ 親展送信を設定する(P. 24)
- ▶ 送信履歴を管理する(P. 26)
- ▶ デフォルト設定を変更する(P. 28)

コンピューターからファクス送信する

アプリケーションで作成した文書を、コンピューターからファクス送信する基本的な手順を説明します。



- WSD ポートで接続したデバイスを使用している場合は、デバイスで [WSD 印刷を使用] を有効にしてください。

事前条件

- **デバイス情報を設定する(P. 52)**

デバイス情報を取得できない場合は、手動でデバイスに装着されているオプションを設定する必要があります。

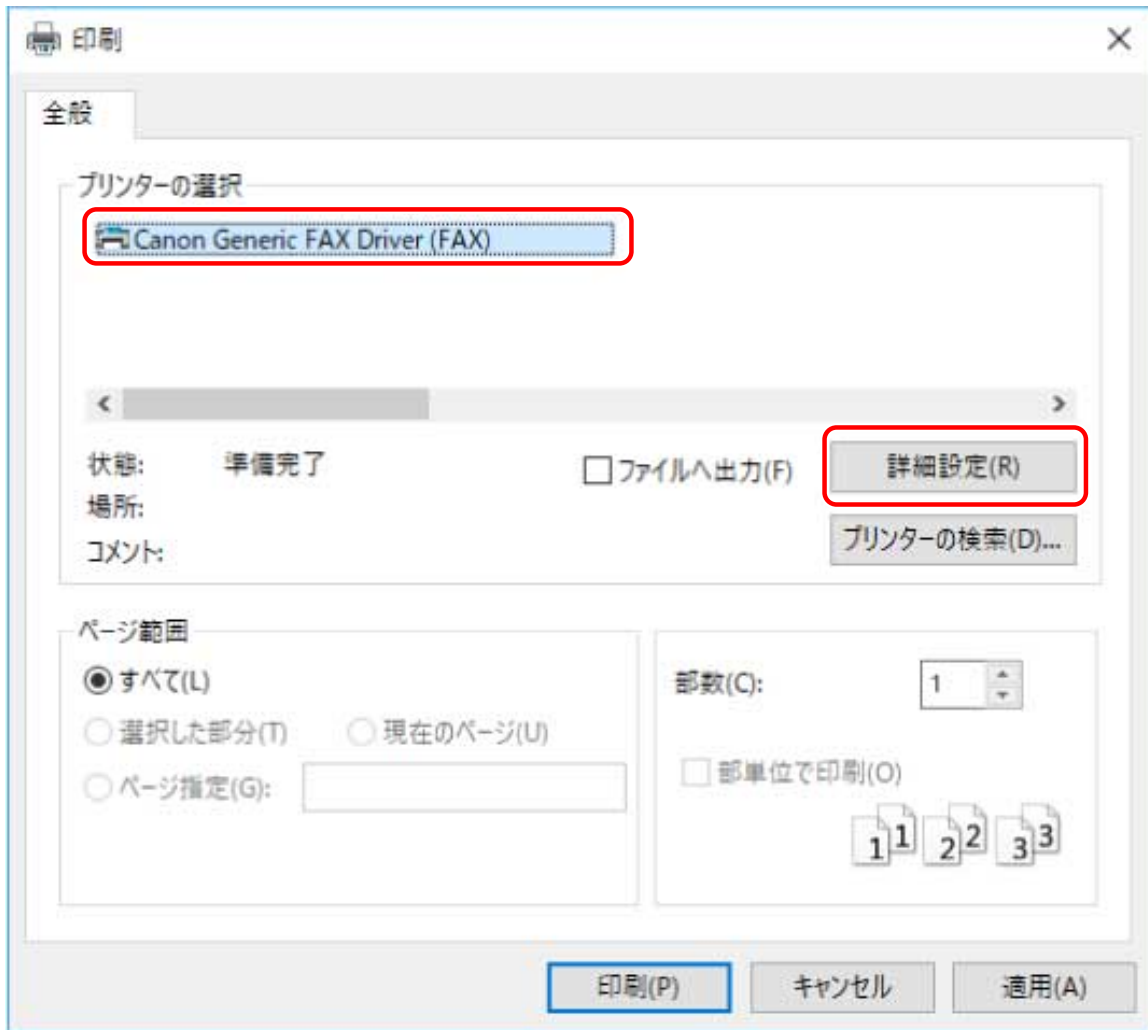
操作手順

1 アプリケーションで文書を開く → 印刷画面を表示

2 使用するデバイスを選択 → [詳細設定] をクリック

[詳細設定] は、アプリケーションによっては、「プリンターのプロパティ」または「プロパティ」の場合があります。

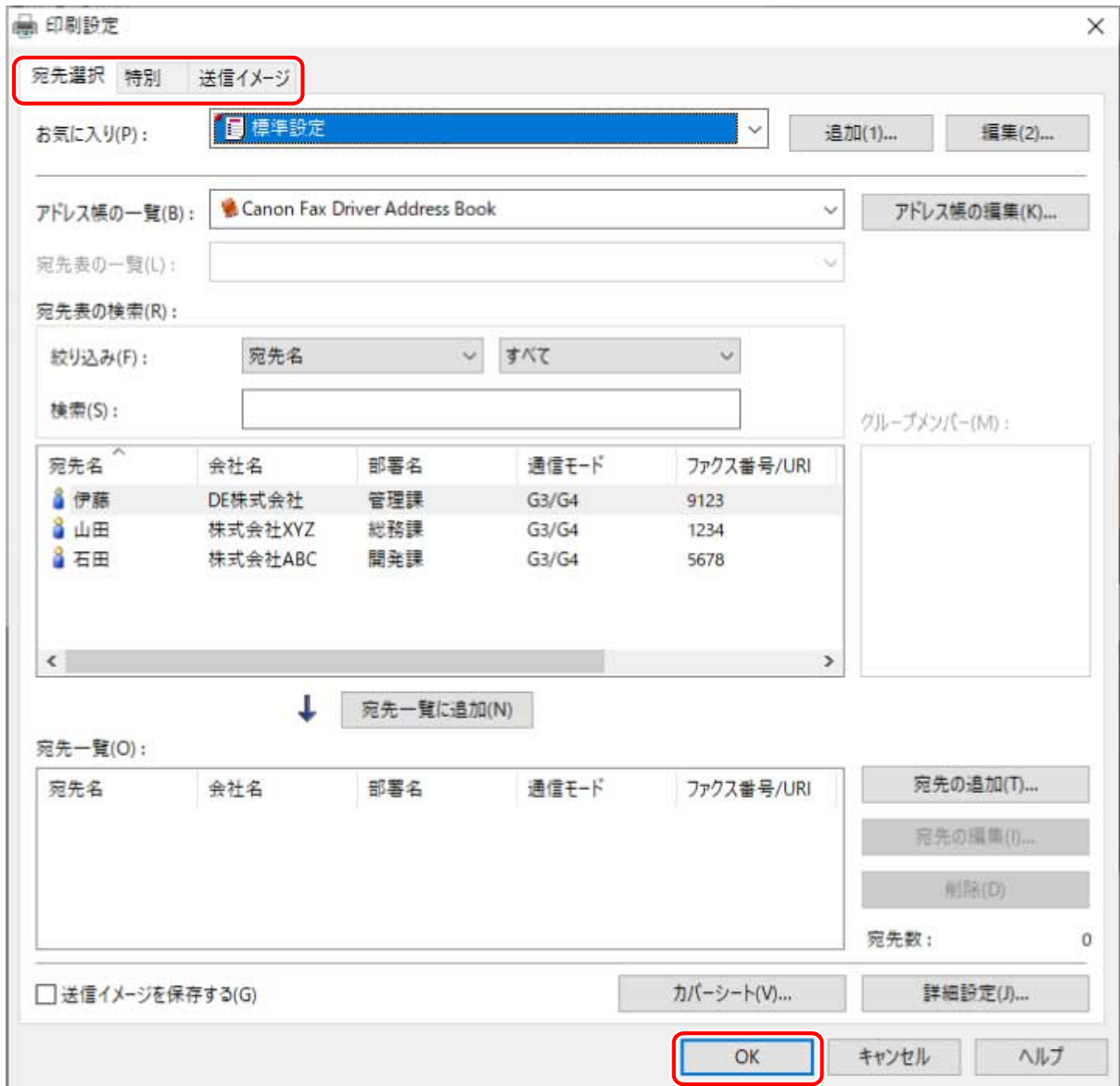
詳細なファクス送信設定が必要ない場合は、[印刷] または [OK] をクリックして、手順 **5.(P. 18)** に進んでください。



3 ドライバーの印刷設定画面で、必要な項目を設定 → [OK] をクリック

必要に応じて、シートを切り替えて設定します。

[宛先選択] シート> [送信イメージを保存する]、[カバーシート]、および [詳細設定] は手順 5.(P. 18) でファクス送信するときにも設定できます。



おもな機能の設定方法は「詳細を開く」をクリックして、参照してください。

1 枚の用紙に複数のページを配置するには

[特別] シート> [ページレイアウト] で配置するページ数を指定

宛先を確認入力するには

[特別] シート> [セキュリティ設定] をクリック → [セキュリティ設定] ダイアログボックスで、[宛先の設定時にファクス番号/URIを確認入力する(誤送信防止)] を有効にする

送信時刻を指定するには*

[宛先選択] シート> [詳細設定] をクリック → [詳細設定] ダイアログボックスで、[送信時刻を指定する] を有効にして時刻を指定 → [OK] をクリック

送信結果をメールで通知するには*

[宛先選択] シート> [詳細設定] をクリック → [詳細設定] ダイアログボックスで、[ジョブ終了通知] を有効にして、通知する条件とメールアドレスを設定 → [OK] をクリック

* これらの機能を設定するには、[デバイスの設定] シートであらかじめ機能を有効にしておく必要があります。デバイス情報を設定する手順を参照して設定しておいてください。

4 アプリケーションの印刷画面で、[印刷] または [OK] をクリック

5 表示された [ファクス送信設定] 画面から、宛先を指定

アドレス帳から指定する場合

- (1) [宛先選択] シートを表示
- (2) [アドレス帳の一覧] からアドレス帳を選択
[宛先表の一覧] にサブアドレス帳が表示されたら、目的のサブアドレス帳を選択
- (3) 宛先を選択 → [宛先一覧に追加] をクリック

直接入力する場合

- (1) [宛先入力] シートを表示
- (2) 使用する通信モードを [通信モード] で選択
- (3) [ファクス番号/URI] を選択 → [ファクス番号] または [URI] を指定

必要に応じて、そのほかの項目を設定します。

ファクス送信設定

宛先選択 宛先入力

お気に入り(P): <変更>標準設定 追加(1)... 編集(2)...

アドレス帳の一覧(B): Canon Device Address Book アドレス帳の編集(K)...

宛先表の一覧(L): 宛先表 01

宛先表の検索(R):

絞り込み(F): 宛先名 すべて

検索(S):

宛先名	会社名	部署名	通信モード	ファクス番号/URI
伊藤	DE株式会社	管理課	G3/G4	9123
山田	株式会社XYZ	総務課	G3/G4	1234
石田	株式会社ABC	開発課	G3/G4	5678

グループメンバー(M):

宛先一覧に追加(N)

宛先一覧(O):

宛先名	会社名	部署名	通信モード	ファクス番号/URI
伊藤	DE株式会社	管理課	G3/G4	9123

宛先の追加(T)...
宛先の編集(I)...
削除(D)

宛先数: 1

送信イメージを保存する(G) カバーシート(V)... 詳細設定(J)...

送信(E) キャンセル ヘルプ

アドレス帳で宛先の詳細を変更するより前に [宛先一覧] へ宛先を追加すると、アドレス帳での変更は反映されません。デフォルト設定でアドレス帳から宛先を登録した場合は、正しい宛先になっているか確認してください。

6 [ファクス送信設定] 画面の [送信] をクリック

確認ダイアログボックスが表示されたら、宛先名や宛先のファクス番号を確認して [OK] をクリックしてください。



メモ

- 送信をキャンセルするには、[ファクス送信設定] 画面の [キャンセル] をクリックします。
アプリケーションによっては、正常にキャンセルされても、エラーメッセージが表示されることがあります。その場合は、[OK] をクリックしてください。

関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ [特別] シート(P. 74)
- ▶ [送信イメージ] シート(P. 76)
- ▶ デフォルト設定を変更する(P. 28)

ファクス送信で使用できる通信方法について

ファクス送信で使用できる通信方法は、使用しているデバイスでサポートしているファクスボードと送信先のファクスの設定によって決まります。

ファクスボードや通信モードなどの通信設定は、[デバイスの設定] シートで適切に設定しておいてください。また、送信先のファクスの設定を確認し、宛先に正しく設定してください。適切に通信設定されていないと、誤送信や送信エラーの原因になる場合があります。

このドライバーで設定できる IP ファクスの通信モードと対応する接続環境は、次のとおりです。

- イン트라ネット
 イン트라ネット内の IP ファクス対応機、または SIP サーバーを使用している場合
- NGN/NGN マイナンバー
 ホームゲートウェイまたはオフィスゲートウェイを介した NGN (Next Generation Network) 上にある NGN 対応機
 マイナンバー設定が有効で、追加番号を使用して呼び出す場合は、「NGN マイナンバー」を使用します。
- VoIP ゲートウェイ
 VoIP ゲートウェイ経由の G3 ファクス対応機

関連項目

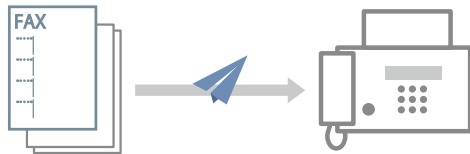
- ▶ [デバイスの設定] シート(P. 77)
- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ デバイス情報を設定する(P. 52)

カバーシートを付ける

送信するデータの先頭に、カバーシート（送付状）を添付できます。

カバーシートには、発信元や宛先の情報のほかに、ロゴや署名を入れて作成できます。

また、デバイスをプリントサーバーで共有している環境で、作成したカバーシートのテンプレートをサーバー側に登録しておくと、クライアント側で共有カバーシートとして使用できるようになります。



カバーシートの項目を、テンプレートに配置した例もご紹介しています。

▶ [カバーシートに記載する項目の配置例\(P. 22\)](#)

カバーシートを添付するには

1 [宛先選択] または [宛先入力] シートを表示

ファクス送信設定画面から表示できます。

[宛先選択] シートは、デフォルト設定を変更するときにも表示できます。

2 [カバーシート] をクリック → [カバーシート] ダイアログボックスの [カバーシートの添付] から、[宛先ごとに別シートを添付] または [全員に同じシートを添付] を選択

[宛先ごとに別シートを添付] を選択すると、宛先に応じた宛先情報がカバーシートに記載されます。

[全員に同じシートを添付] を選択すると、全員分の宛先情報がカバーシートに記載されます。

3 [使用するカバーシート] からテンプレートを選択

あらかじめ登録しておいた共有カバーシートを選択することもできます。共有カバーシートには、赤い点（●）が付いています。

[登録] をクリックすると、独自に作成したカバーシートをテンプレートとして登録できます。

4 [記載する項目] で、項目の設定状況を確認 → 項目の変更や詳細設定をする場合は、[設定] をクリック

項目を設定しない場合は、手順 6.(P. 22) に進みます。

5 [カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックスで、必要な項目を設定 → [OK] をクリック

設定した項目とカバーシートでの表示位置は、次の配置例を参考にしてください。

▶ [カバーシートに記載する項目の配置例\(P. 22\)](#)



- カバーシートに記載する情報をデフォルト設定として登録しておけば、ファクス送信のたびに設定する手間を省けます。

- 6 「至急」や「社外秘」などのラベルを付ける場合は、[注目ラベルを付ける] を選択 → [ラベル] からラベルを選択
[ラベル] に任意のテキストを入力することもできます。
- 7 必要に応じて、[記載するコメント] にコメントを入力 → [プレビュー] をクリックしてプレビューを確認
- 8 [カバーシート] ダイアログボックスで、[OK] をクリック


共有カバーシートを登録するには

事前条件

- コンピューター起動時、管理者権限をもつユーザーでログオン
- 登録するカバーシートが、ファイルサーバーに格納されている

操作手順

1 プリンタープロパティ画面を表示

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetoothとデバイス] (または [デバイス]) を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [プリンターのプロパティ] をクリック

2 [共有カバーシート] シートを表示

3 [登録] をクリック → [共有カバーシートの登録] ダイアログボックスで、カバーシート (*.cse) を選択 → [開く] をクリック

[共有するカバーシート] に登録したカバーシートの名前が表示されます。

[共有するカバーシート] でカバーシートを選択したあと、[プレビュー] をクリックすると、カバーシートの詳細を確認できます。

4 [OK] または [適用] をクリック

カバーシートに記載する項目の配置例

項目を設定するとどのように配置されるか、デフォルトテンプレートの [テンプレート 1] を例として示します。

[カバーシート] ダイアログボックスで設定する項目

- (1) [注目ラベルを付ける]
- (2) [記載する項目] > [カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックス > [詳細設定] シート
- (3) [記載する項目] > [カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックス > [発信元] シート
- (4) [記載する項目] > [カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックス > [宛先] シート
- (5) [記載するコメント]

[カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックス > [ロゴ] または [署名] シートでロゴまたは署名用のファイルを設定した場合は、[カバーシート] ダイアログボックス > [プレビュー] をクリックすると、ロゴまたは署名がどのように表示されるかを確認できます。

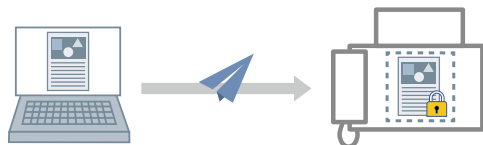
関連項目

- 🔍 [カバーシート] ダイアログボックス(P. 67)
- 🔍 [カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックス(P. 68)
- 🔍 [共有カバーシートの登録] ダイアログボックス(P. 81)
- 🔍 Cover Sheet Editor について (P. 89)
- 🔍 デフォルト設定を変更する(P. 28)

親展送信を設定する

宛先のメモリーボックスへファクスデータを送信します。

送信したデータを出力するにはパスワードの入力が必要となるため、機密書類を送信する場合に便利です。




親展送信機能を有効にするには

事前条件

- コンピューター起動時、管理者権限をもつユーザーでログオン

操作手順

1 プリンタープロパティ画面を表示

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetoothとデバイス] (または [デバイス]) を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [プリンターのプロパティ] をクリック

2 [デバイスの設定] シートを表示

3 [F コードの認証] から使用する認証モードを選択

デバイス側で設定している認証方法に合わせて設定してください。

4 [詳細設定] をクリック → [詳細設定] ダイアログボックスで、[F コードを使う] を選択 → [OK] をクリック

5 [デバイスの設定] シートで、[OK] または [適用] をクリック

親展情報を宛先に設定するには

親展送信するために、送信先のファクスに登録されている親展情報 (F コードとパスワード) を、宛先に設定します。

ここでは、[宛先選択] シートから宛先を追加する際に、親展情報を設定する手順の例を示します。

事前条件

- 送信先のファクスに登録されている親展情報（Fコードとパスワード）

操作手順

1 [宛先選択] シートを表示

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 [宛先一覧] 横の [宛先の追加] をクリック

3 [宛先の追加] ダイアログボックスで、[宛先名]、[通信モード]などを指定

4 [Fコードを使う] を選択 → [Fコード] と [パスワード] を入力 → [OK] をクリック

[宛先選択] シート> [宛先一覧] に宛先が追加されます。

親展情報は、上記の手順のほかにも、次のどちらかの宛先を追加または編集するときにも設定できます。

- アドレス帳の個人の宛先
[G3/G4 ファクス番号] を指定して送信する場合は、最大2つのファクス番号を指定できます。親展情報は、[特殊機能] からそれぞれのファクス番号に設定できます。
- [宛先入力] シートで、手動入力する宛先

関連項目

- ▶ [詳細設定] ダイアログボックス(P. 79)
- ▶ [宛先の追加] ダイアログボックス(P. 64)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ ファクス送信で使用できる通信方法について(P. 20)
- ▶ デフォルト設定を変更する(P. 28)

送信履歴を管理する

送信データの画像、送信時刻、宛先などの履歴を送信イメージとして保存して管理します。

複数のデバイスでこのドライバーを使用している場合は、デバイスごとに履歴を参照できます。また、複数の宛先に送信した履歴は、宛先ごとに確認できます。

送信履歴を保存するには

1 [宛先選択] シートを表示

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 [送信イメージを保存する] を選択

送信履歴の保存先や保存する最大件数を設定したい場合は、このあとの手順も行ってください。

設定しない場合は、[OK] をクリックします。

3 [送信イメージ] シートを表示

4 [保存の設定] をクリック

5 [保存の設定] ダイアログボックスで、送信履歴の保存先や保存する最大件数を設定 → [OK] をクリック

保存先は、ローカルフォルダーだけ指定できます。ネットワークフォルダーは指定できません。

6 [送信イメージ] シートで、[OK] をクリック



- [宛先入力] シートで [送信イメージを保存する] を選択することもできます。

送信履歴を確認するには

1 [送信イメージ] シートを表示

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 複数のデバイスでこのドライバーを使用している場合は、[イメージを表示するドライバー] でデバイスに対応するドライバー名を選択

3 [送信イメージ] から確認する送信履歴を選択

確認したい履歴が表示されていない場合は、[更新] をクリックして最新の状態にしてください。

4 プレビューで、送信履歴の詳細を確認

[拡大] をクリックすると、ビューワーでさらに拡大して履歴を確認できます。

履歴が複数ページの場合は、[前へ] や [次へ] でページを切り替えることができます。

複数の宛先に送信した場合は、[宛先一覧] で確認したい履歴の宛先を選択して確認します。


関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [保存の設定] ダイアログボックス(P. 76)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ デフォルト設定を変更する(P. 28)

デフォルト設定を変更する

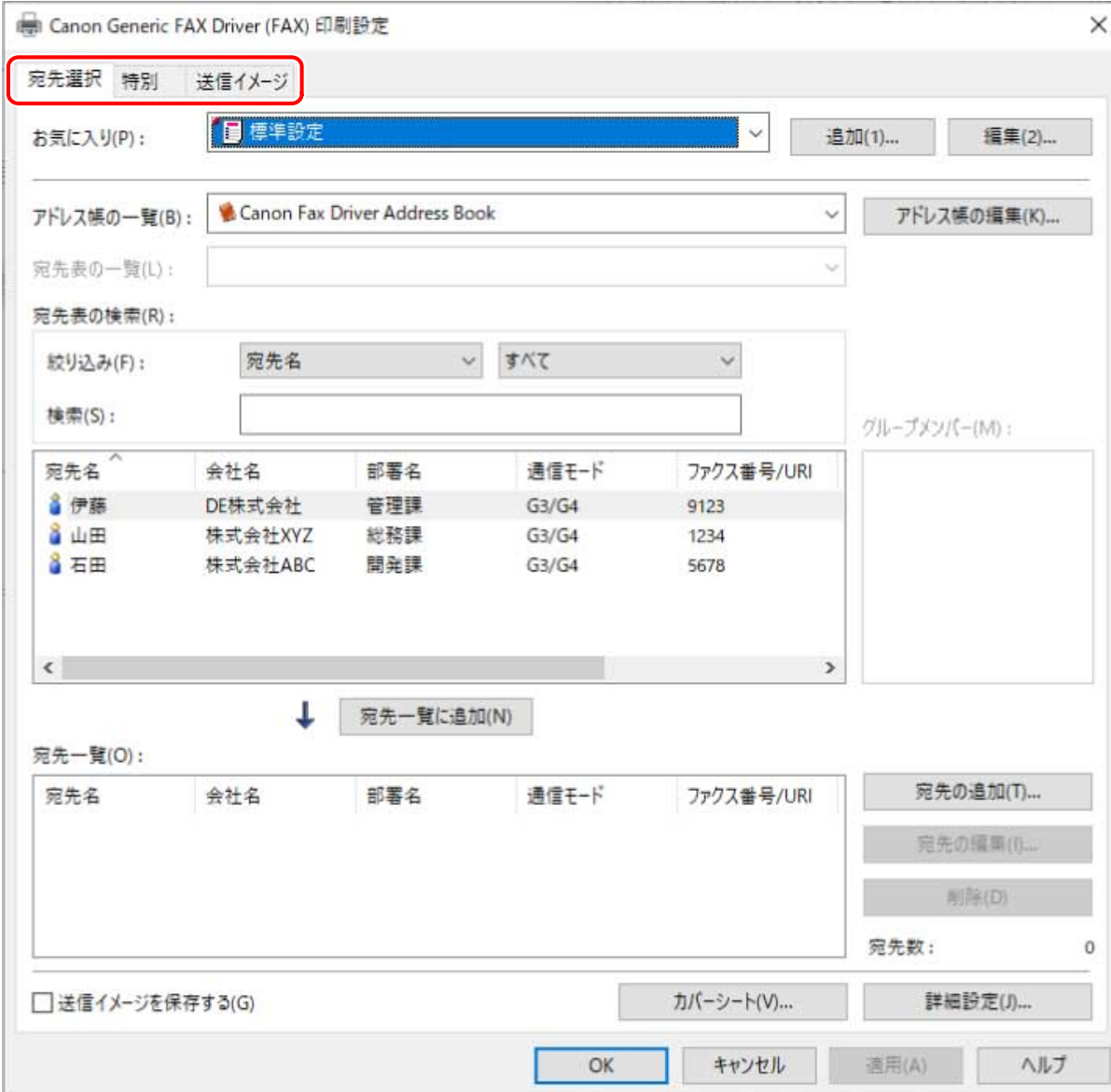
デフォルトの設定を、任意のファクス送信設定に変更できます。よく使う設定に変更しておけば、送信時に設定する手間を省けます。

1 ドライバーの印刷設定画面を表示

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetoothとデバイス] (または [デバイス]) を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [印刷設定] をクリック

2 表示された印刷設定画面で、必要な項目を設定

必要に応じて、シートを切り替えて設定します。



Canon Generic FAX Driver (FAX) 印刷設定

宛先選択 特別 送信イメージ

お気に入り(P): 標準設定 追加(1)... 編集(2)...

アドレス帳の一覧(B): Canon Fax Driver Address Book アドレス帳の編集(K)...

宛先表の一覧(L):

宛先表の検索(R):

絞り込み(F): 宛先名 すべて

検索(S):

宛先名	会社名	部署名	通信モード	ファクス番号/URI
伊藤	DE株式会社	管理課	G3/G4	9123
山田	株式会社XYZ	総務課	G3/G4	1234
石田	株式会社ABC	開発課	G3/G4	5678

グループメンバー(M):

宛先一覧(O):

宛先名	会社名	部署名	通信モード	ファクス番号/URI
-----	-----	-----	-------	------------

宛先の追加(T)...
宛先の編集(I)...
削除(D)
宛先数: 0

送信イメージを保存する(G) カバーシート(V)... 詳細設定(J)...

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

3 [OK] または [適用] をクリック

ドライバーのアドレス帳を編集する

ドライバーのアドレス帳を編集する	31
ドライバーのアドレス帳に個人のアドレスを追加する	32
ドライバーのアドレス帳にグループを追加する	33

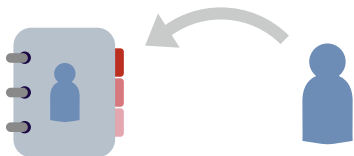
ドライバーのアドレス帳を編集する

- ▶ ドライバーのアドレス帳に個人のアドレスを追加する(P. 32)
- ▶ ドライバーのアドレス帳にグループを追加する(P. 33)

ドライバーのアドレス帳に個人のアドレスを追加する

アドレス帳に個人の宛先情報を登録します。送信先のファクスに応じた通信モードも設定できます。

個人の宛先は最大 3000 人まで追加できます。



1 [宛先選択] シートを表示

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 [アドレス帳の一覧] から [Canon Fax Driver Address Book] を選択 → [アドレス帳の編集] をクリック

3 [アドレス帳の編集] ダイアログボックスで、[個人の追加] をクリック

4 [個人の追加] ダイアログボックスで、宛先名や会社名などの項目を入力

必要に応じて [メモ] を入力してください。

[フリガナ] を入力しておく、宛先を検索する際、絞り込みに使用できます。

5 G3/G4 通信を使用する場合は、[G3/G4 ファクス番号] シートを選択して、ファクス番号を入力

必要に応じて、[設定] から F コード機能や ISDN サブアドレスを設定します。

6 IP ファクス通信を使用する場合は、[IP ファクス番号] シートを選択して各項目を設定

必要に応じて F コード機能を設定、または [用途] を入力してください。

7 [個人の追加] ダイアログボックスで、[OK] をクリック

[アドレス帳の編集] ダイアログボックスの [アドレス帳] に宛先が追加されます。

8 [アドレス帳の編集] ダイアログボックスで、[OK] をクリック

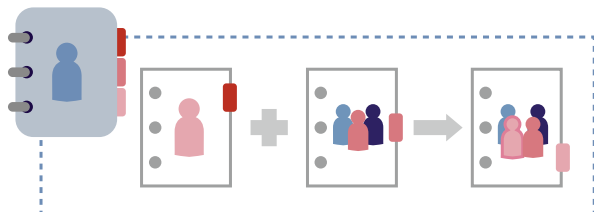
関連項目

- ▶ [アドレス帳の編集] ダイアログボックス(P. 65)
- ▶ [個人の追加] ダイアログボックス(P. 65)
- ▶ ファクス送信で利用できる通信方法について(P. 20)
- ▶ デフォルト設定を変更する(P. 28)

ドライバーのアドレス帳にグループを追加する

アドレス帳に登録している宛先をグループとして登録します。同じ内容のデータを複数の宛先に送信したい場合に便利な機能です。

グループの宛先は最大 3000 グループまで追加できます。



1 [宛先選択] シートを表示

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 [アドレス帳の一覧] から [Canon Fax Driver Address Book] を選択 → [アドレス帳の編集] をクリック

3 [アドレス帳の編集] ダイアログボックスで、[グループの追加] をクリック

4 [グループの追加] ダイアログボックスで、グループ名を設定

[フリガナ] を入力しておく、ファクス送信時に宛先を検索する際、絞り込みに使用できます。

5 [追加する宛先] から、グループとして登録する宛先を選択 → [追加] をクリック

[表示する項目] で表示するカテゴリーを切り替えられます。

追加すると、[詳細] > [グループメンバー] に、追加した宛先が表示されます。

グループから宛先を削除する場合は、[グループメンバー] から削除したい宛先を選択 → [削除] をクリック

6 [グループの追加] ダイアログボックスで、[OK] をクリック

[アドレス帳の編集] ダイアログボックスの [アドレス帳] にグループの宛先が追加されます。

7 [アドレス帳の編集] ダイアログボックスで、[OK] をクリック

関連項目

- ▶ [アドレス帳の編集] ダイアログボックス(P. 65)
- ▶ [グループの追加] ダイアログボックス(P. 66)
- ▶ デフォルト設定を変更する(P. 28)

アドレス帳を登録する

アドレス帳を登録する	35
アドレス帳の種類について	36
ドライバーのアドレス帳をインポート/エクスポートする	38
デバイスやほかのアプリケーションのアドレス帳を登録する	40

アドレス帳を登録する

- ▶ アドレス帳の種類について(P. 36)
- ▶ ドライバーのアドレス帳をインポート/エクスポートする(P. 38)
- ▶ デバイスやほかのアプリケーションのアドレス帳を登録する(P. 40)

アドレス帳の種類について

このドライバーで使用できるアドレス帳の種類と、登録またはインポートできるファイル形式は次のとおりです。

Canon Fax Driver Address Book：ドライバーのアドレス帳

アドレス帳の内容をインポートおよびエクスポートできます。

インポートできるファイル形式

- CSV ファイル (*.csv)
- Canon Address Book (*.abk)
- デバイス設定値情報ファイル (*.dcm)

デバイスからセキュリティーレベル 1 でエクスポートしたファイルのみ

Canon Fax Driver Address Book は、CSV ファイル (*.csv) または Canon Address Book (*.abk) のどちらかのファイル形式でエクスポートできます。

Messaging API：Microsoft Outlook のアドレス帳

登録できるファイル形式

- Outlook に登録されている MAPI プロファイル

このドライバーを 64 ビット環境で使用している場合は、64 ビット版のアドレス帳を登録できます。

ただし、Citrix Virtual Apps 環境など仮想環境で共有しているアドレス帳は登録できません。

Windows Address Book：Microsoft Outlook Express のアドレス帳

登録できるファイル形式

- Windows Address Book (*.wab)

ファイルパスを指定しない場合は、デフォルトの Windows Address Book が登録されます。

Canon Device Address Book：デバイスからエクスポートしたアドレス帳

デバイスからエクスポートされたアドレス帳をこのドライバーに登録するには、次のいずれかのサブアドレス帳を含む必要があります。

- 宛先表 1～10
- ワンタッチ
- 管理者用宛先表

使用しているデバイスの操作パネルまたはリモート UI で、上記のサブアドレス帳が含まれているか確認してください。

登録できるファイル形式

- Canon Device CSV ファイル (*.csv)
- Canon Address Book (*.abk)
- デバイス設定値情報ファイル (*.dcm)

デバイスからセキュリティーレベル 1 でエクスポートしたファイルのみ

関連項目

- ▶ ドライバーのアドレス帳をインポート/エクスポートする(P. 38)
- ▶ デバイスやほかのアプリケーションのアドレス帳を登録する(P. 40)

ドライバーのアドレス帳をインポート/エクスポートする

他のアプリケーションで使用していたアドレス帳の内容を、このドライバーのアドレス帳にインポートします。また、アドレス帳の内容をエクスポートして、他のアプリケーションで使用することもできます。

アドレス帳をエクスポートするには



- アドレス帳のエクスポートをパスワードで保護する場合は、[特別] シート > [セキュリティ設定] で設定できます

1 [宛先選択] シートを表示

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 [アドレス帳の一覧] から [Canon Fax Driver Address Book] を選択 → [アドレス帳の編集] をクリック

3 [アドレス帳の編集] ダイアログボックスで、[ファイル保存] をクリック

4 保存場所とファイル名を指定 → [保存] または [OK] をクリック

アドレス帳を保存する際に選択できるファイル形式と文字コードを次に示します。

- ファイル形式：CSV ファイル (*.csv) / Canon Address Book (*.abk)
- 文字コード (Canon Address Book で保存する場合)：ANSI / UTF-8

なお、アドレス帳の項目 [メモ] は、エクスポートされません。

5 [OK] をクリック

アドレス帳をインポートするには

事前条件

- インポートするアドレス帳ファイルの種類および形式の確認

操作手順

1 [宛先選択] シートを表示

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 [アドレス帳の一覧] から [Canon Fax Driver Address Book] を選択 → [アドレス帳の編集] をクリック

3 表示されたダイアログボックスで、[ファイル読み込み] をクリック → インポートするアドレス帳のファイルを選択

重複する個人の宛先が含まれているかをチェックしながらインポートする場合は、[個人の宛先重複を確認する(グループは読み込み対象外)] を有効にします。

有効にした場合は、グループの宛先はインポートの対象から除外されます。

4 [開く] をクリック

上記手順で、[個人の宛先重複を確認する(グループは読み込み対象外)] を有効にしていた場合、重複した個人の宛先が見つかったら、確認ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスのメッセージに沿って、インポートを進めます。

5 [アドレス帳の編集] ダイアログボックスで、[OK] をクリック

関連項目

- ▶ [アドレス帳の編集] ダイアログボックス(P. 65)
- ▶ アドレス帳の種類について(P. 36)
- ▶ デフォルト設定を変更する(P. 28)
- ▶ [特別] シート(P. 74)

デバイスやほかのアプリケーションのアドレス帳を登録する

デバイスやほかのアプリケーションで使用していたアドレス帳を参照できるように、ドライバーに登録します。

ここでは、ユーザーごとに登録する手順と、管理者がプリントサーバーのデバイスに登録する手順を説明します。

プリントサーバーのデバイスにアドレス帳を登録すると、クライアント側でも同じアドレス帳を使用できるようになります。

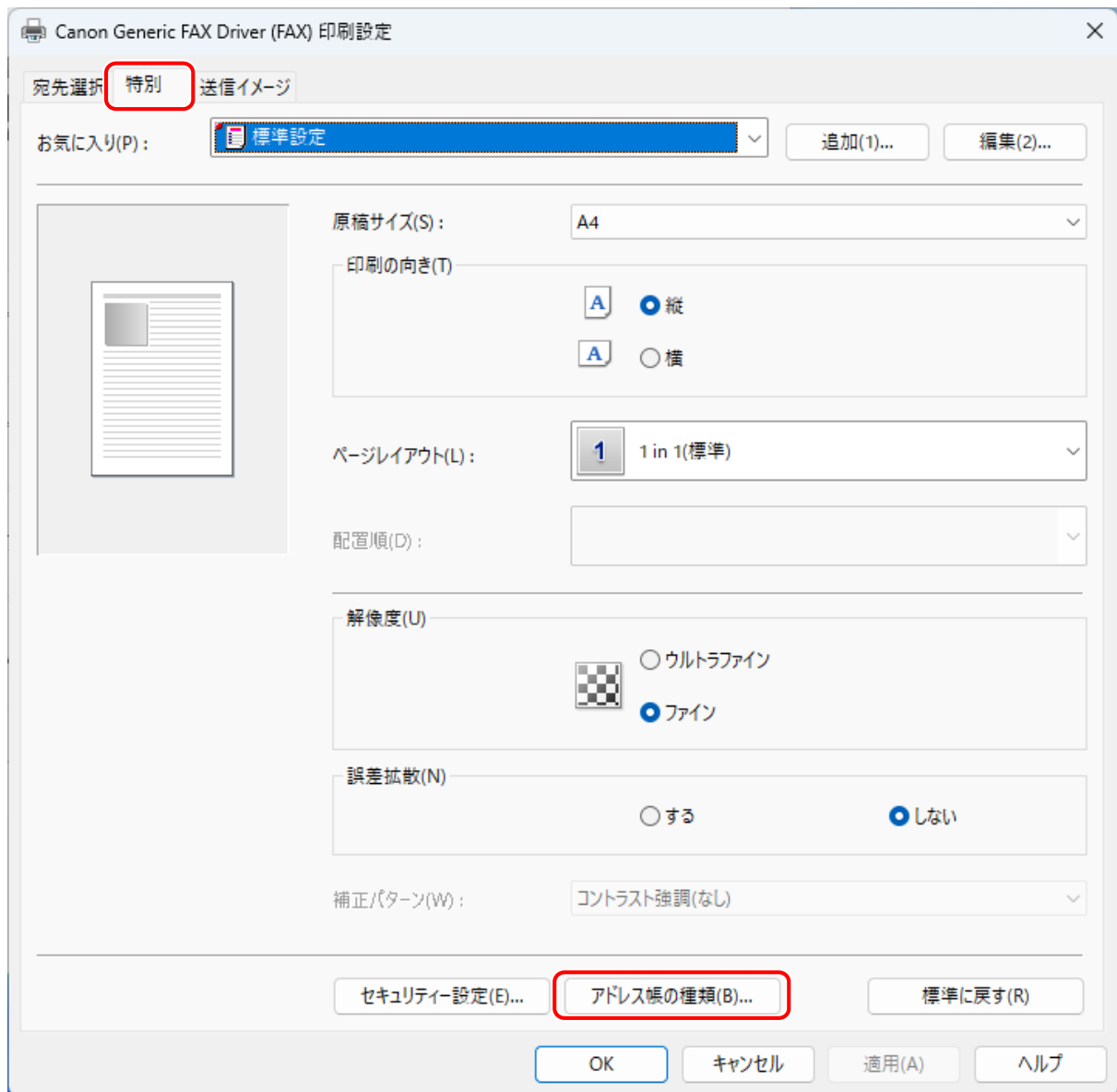
ユーザーごとにアドレス帳を登録する

事前条件

- 登録するアドレス帳ファイルの種類および形式の確認
この手順で登録できるアドレス帳の種類は次のとおりです。
 - Windows Address Book
 - Messaging API
 - Canon Device Address Book

操作手順

- 1** [特別] シートを表示 → [アドレス帳の種類] をクリック



2 表示されたダイアログボックスで [登録] をクリック

すでに登録されているアドレス帳があれば、ダイアログボックスの一覧に表示されます。

3 [アドレス帳の登録] ダイアログボックスで、登録したいアドレス帳の種類を選択 → [OK] をクリック

Canon Device Address Book は、最大 10 個まで登録できます。

4 追加/変更ダイアログボックスから、登録するアドレス帳のファイルを選択 → [OK] をクリック

必要に応じて、アドレス帳の種類の名前を入力または変更してください。

Messaging API の場合は、使用するプロファイルを選択します。

5 [アドレス帳の種類] ダイアログボックスで、[OK] をクリック


プリントサーバーで共有しているデバイスにアドレス帳を登録する

事前条件

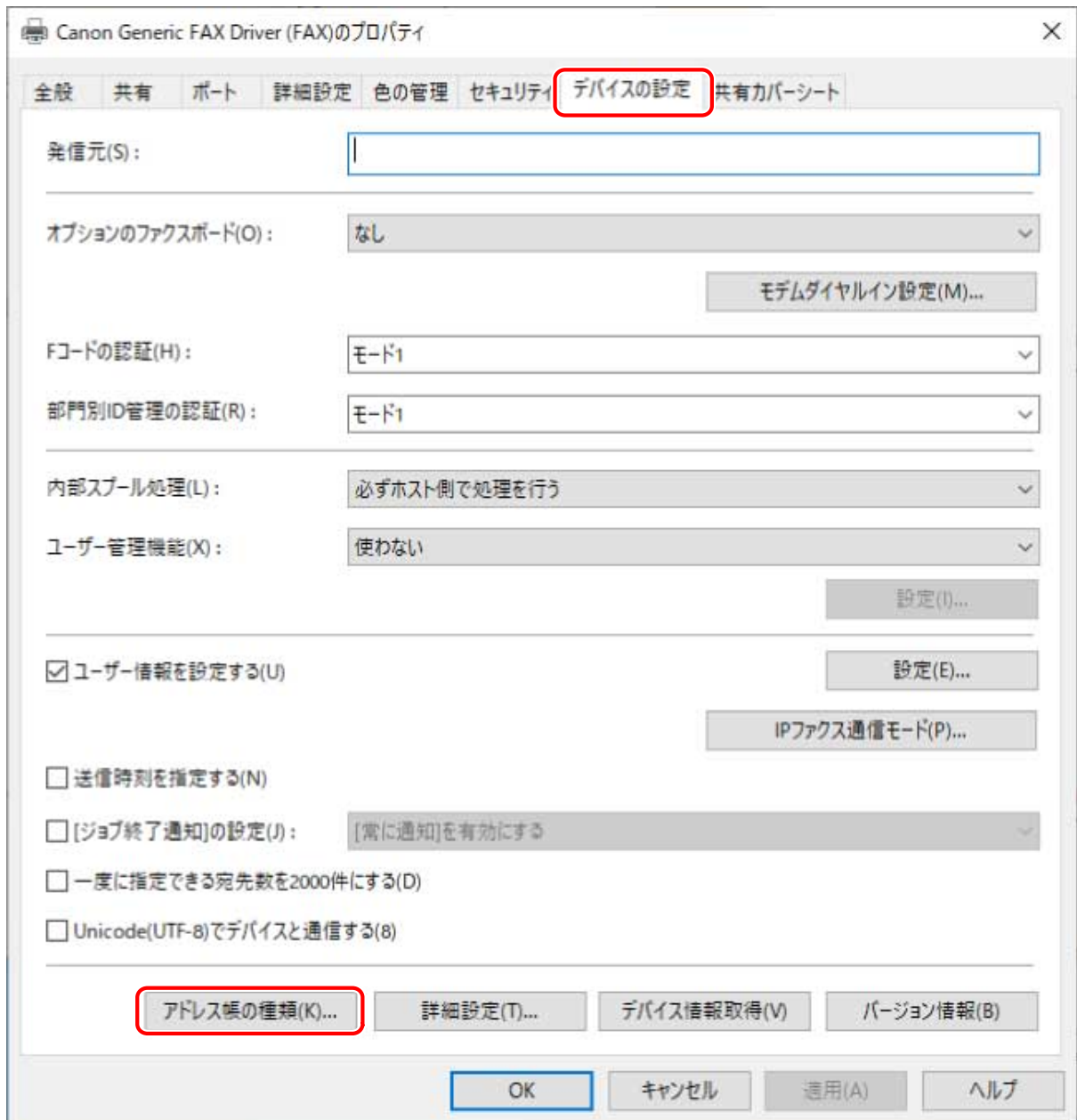
- コンピューター起動時、管理者権限をもつユーザーでログオン
- 登録するアドレス帳ファイルの種類および形式の確認
この手順では、Canon Device Address Book 形式のアドレス帳ファイルのみ登録できます。
- 登録するアドレス帳ファイルのネットワークフォルダーへの格納
ローカルフォルダーに格納されている場合、この手順ではアドレス帳を登録できません。

操作手順

1 プリンタープロパティ画面を表示

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetoothとデバイス]（または [デバイス]）を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [プリンターのプロパティ] をクリック

2 [デバイスの設定] シートを表示 → [アドレス帳の種類] をクリック



3 表示されたダイアログボックスで [登録] をクリック

すでに登録されているアドレス帳があれば、ダイアログボックスの一覧に表示されます。

Canon Device Address Book は、最大 10 個まで登録できます。

4 追加/変更ダイアログボックスで、登録するアドレス帳の名前を入力し、登録するファイルを選択 → [OK] をクリック

5 [アドレス帳の種類] ダイアログボックスで、[OK] をクリック

6 [デバイスの設定] シートで、[OK] または [適用] をクリック

関連項目

- ▶ アドレス帳の種類について(P. 36)
- ▶ [特別] シート(P. 74)
- ▶ [デバイスの設定] シート(P. 77)

お気に入りを編集する

お気に入りを編集する	46
お気に入りを登録する	47
お気に入り一覧を編集する	48

お気に入りを編集する

- ▶ お気に入りを登録する(P. 47)
- ▶ お気に入り一覧を編集する(P. 48)

お気に入りを登録する

よく使う設定をお気に入りとして登録します。

1 [宛先選択] または [特別] シートを表示 → 登録したい設定を行う

ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面から表示できます。

2 [お気に入り] の横の [追加] をクリック

3 [お気に入りの追加] ダイアログボックスで、[名称] と [アイコン] を設定

必要に応じて [コメント] を入力してください。

4 [OK] をクリック

[お気に入り] に新しいお気に入りが追加されます。[お気に入り] から項目を選択すると、登録した設定を適用できます。

関連項目

- 🔍 [お気に入りの追加] ダイアログボックス(P. 61)
- 🔍 デフォルト設定を変更する(P. 28)

お気に入り一覧を編集する

【お気に入り】の一覧を編集します。他のコンピューターで使用するために、お気に入りをインポートまたはエクスポートすることもできます。

お気に入り一覧を編集するために表示する【宛先選択】または【特別】シートは、ファクス送信するとき、またはデフォルト設定を変更するときのファクス送信設定画面に表示されます。

【お気に入り】の一覧を編集するには

- 1 【宛先選択】または【特別】シートを表示
- 2 【お気に入り】の横の【編集】をクリック
- 3 【お気に入りの編集】ダイアログボックスで、【お気に入り一覧】から編集するお気に入りを選択 → 【名称】と【アイコン】を設定
必要に応じて【コメント】を入力してください。
お気に入りを削除する場合は、【お気に入り一覧】から削除したいお気に入りを選択 → 【削除】をクリック → 【はい】をクリック
- 4 【OK】をクリック

お気に入りをエクスポートするには

- 1 【宛先選択】または【特別】シートを表示
- 2 【お気に入り】の横の【編集】をクリック
- 3 【お気に入りの編集】ダイアログボックスで、【お気に入り一覧】からエクスポートするお気に入りを選択 → 【ファイル保存】をクリック
- 4 保存場所とファイル名を指定 → 【保存】または【OK】をクリック
- 5 【OK】をクリック
選択したお気に入りは、「*.cfg」のファイルとして保存されます。

お気に入りをインポートするには

- 1 [宛先選択] または [特別] シートを表示
- 2 [お気に入り] の横の [編集] をクリック
- 3 [お気に入りの編集] ダイアログボックスで、[ファイル読み込み] をクリック → インポートする
お気に入りのファイルを選択 → [開く] をクリック
[お気に入り一覧] にインポートしたお気に入りが表示されます。
- 4 [OK] をクリック

関連項目

- ▶ [お気に入りの編集] ダイアログボックス(P. 61)
- ▶ お気に入りを登録する(P. 47)

ドライバーとデバイスを連携させる

ドライバーとデバイスを連携させる	51
デバイス情報を設定する	52
認証機能を設定する	55
ユーザー名を設定する	57

ドライバーとデバイスを連携させる

- ▶ デバイス情報を設定する(P. 52)
- ▶ 認証機能を設定する(P. 55)
- ▶ ユーザー名を設定する(P. 57)

デバイス情報を設定する

次の場合は、この手順に沿ってデバイスのオプションを設定する必要があります。


- インストール中にデバイス情報が取得されなかった
- デバイス機能やオプションが、[デバイスの設定] シートで正しく設定されていない
- デバイスにオプションを追加した
- デバイスのファクス送信設定が変更された

事前条件

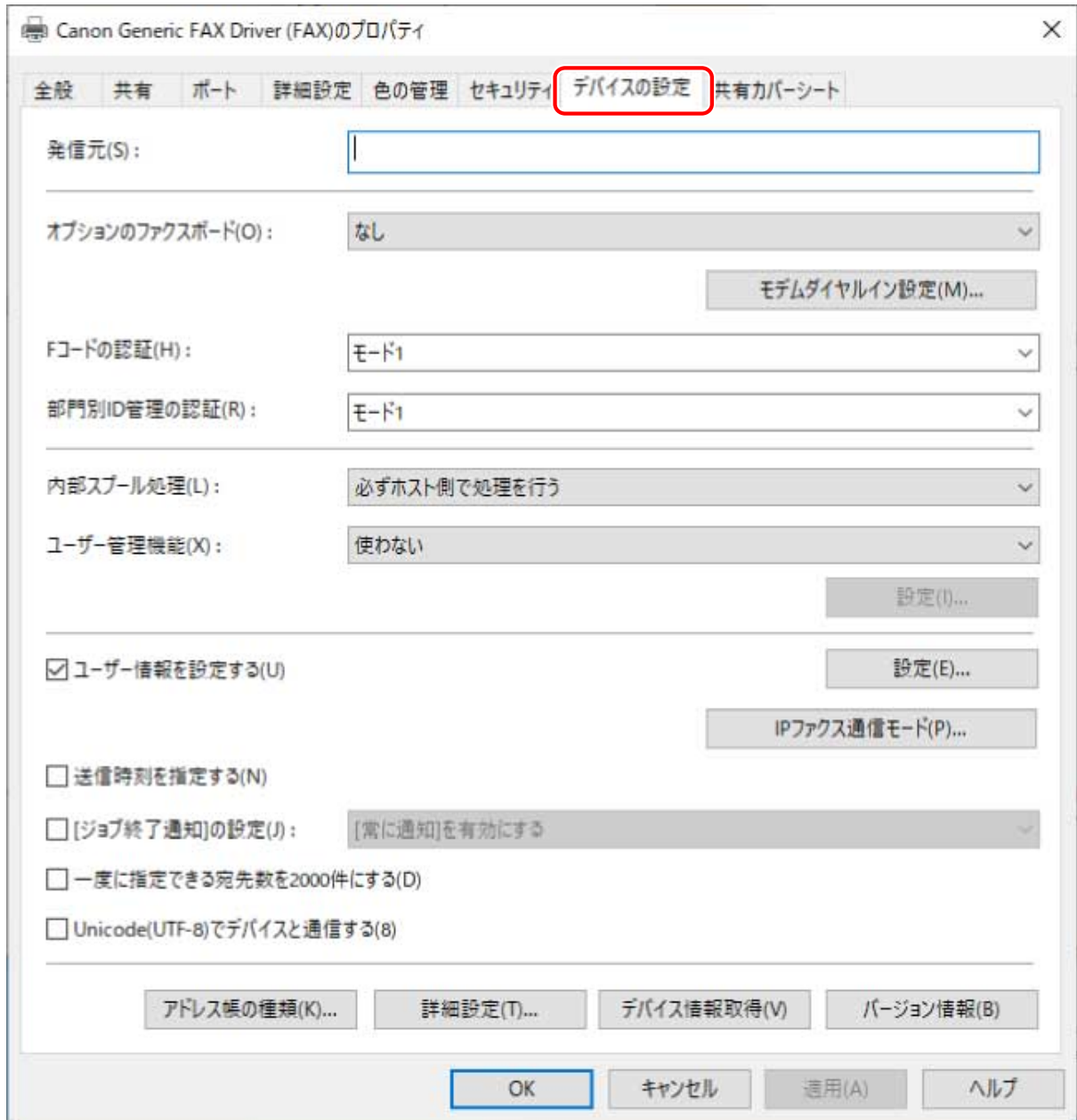
- デバイス側での設定
 - WSD ポートでデバイスを接続している場合は、[WSD 参照を使用] が有効になっている
 - 標準 TCP/IP ポートを指定してデバイスを接続している場合は、[ホストからプリンター管理情報を取得] が有効になっている詳細は、デバイスのマニュアルを参照してください。
- コンピューター起動時、管理者権限をもつユーザーでログオン

操作手順

1 プリンタープロパティ画面を表示

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetoothとデバイス] (または [デバイス]) を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [プリンターのプロパティ] をクリック

2 [デバイスの設定] シートを表示



3 [デバイス情報取得] をクリック

4 「デバイス情報を取得しますか?」というメッセージが表示された場合は、[はい] をクリック

情報取得できた場合は、自動設定されたオプション構成を確認します。

情報取得できなかった場合は、手動でオプション構成を設定します。デバイスに装着されているオプションを選択してください。

5 [詳細設定] をクリック → 必要に応じて設定

[詳細設定] の項目は、自動設定されません。必要に応じて、手動で設定してください。

6 [デバイスの設定] シートで、[OK] または [適用] をクリック

関連項目

- ▶ [デバイスの設定] シート(P. 77)
- ▶ デバイス情報取得機能/認証機能を使用できない(P. 84)

認証機能を設定する

部門別 ID 管理機能またはユーザー認証機能による、送信管理を行います。




事前条件

- コンピューター起動時、管理者権限をもつユーザーでログオン

操作手順

1 プリンタープロパティ画面を表示

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetoothとデバイス] (または [デバイス]) を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [プリンターのプロパティ] をクリック

2 [デバイスの設定] シートを表示

3 [ユーザー管理機能] から使用する認証機能を選択 → [設定] をクリック

4 [部門 ID/暗証番号の設定] または [ユーザー認証の設定] ダイアログボックスで、[暗証番号の設定を許可する] または [パスワードの設定を許可する] を選択 → 認証情報を入力

部門別 ID 管理機能を使用する場合は、[部門 ID] および [暗証番号] に情報を入力します。

ユーザー認証機能を使用する場合は、[ユーザー名] および [パスワード] に情報を入力します。

入力した内容とデバイスで設定された認証情報は、[照会] をクリックして一致しているかどうかを確認できます。

5 必要に応じて、[ファクス送信時に認証情報を確認する] を選択 → [OK] をクリック

6 [デバイスの設定] シートで、[OK] または [適用] をクリック

ファクス送信するときに [部門 ID/暗証番号の確認] または [ユーザー名/パスワードの確認] ダイアログボックスが表示されたら、認証情報を確認または設定してください。



メモ

- 使用する文字によっては、ファクス送信に使用するユーザー名およびパスワードを最大文字数分入力できないことがあります。

関連項目

- ▶ [\[部門 ID/暗証番号の設定\] ダイアログボックス\(P. 77\)](#)
- ▶ [\[ユーザー認証の設定\] ダイアログボックス\(P. 78\)](#)
- ▶ [\[部門 ID/暗証番号の確認\] ダイアログボックス\(P. 80\)](#)
- ▶ [\[ユーザー名/パスワードの確認\] ダイアログボックス\(P. 80\)](#)

ユーザー名を設定する

ファクス送信ジョブで使用するユーザー名を設定します。

設定したユーザー名は、デバイスの操作パネル表示、および、送信データのヘッダーまたはフッターに反映されます。




事前条件

- コンピューター起動時、管理者権限をもつユーザーでログオン

操作手順

1 プリンタープロパティ画面を表示

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetooth とデバイス] (または [デバイス]) を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [プリンターのプロパティ] をクリック

2 [デバイスの設定] シートを表示

3 [ユーザー情報を設定する] を選択 → [設定] をクリック

4 [ユーザー情報の設定] ダイアログボックスで、[ユーザー名] に名前を入力 → [OK] をクリック

デフォルトで使用するユーザー名を変更する場合は、[ユーザー名の管理] をクリック → [ユーザー名に設定する名称] を設定 → [OK] をクリックしてください。

ユーザー名の変更を防ぐ場合は、[ユーザー名の管理] をクリック → [ユーザー名の変更を許可しない] を選択 → [OK] をクリックしてください。

5 [デバイスの設定] シートで、[OK] または [適用] をクリック



- 使用する文字によっては、ファクス送信に使用するユーザー名を最大文字数分入力できないことがあります。

関連項目

- ▶ [ユーザー情報の設定] ダイアログボックス(P. 78)

設定項目一覧

設定項目一覧	60
シート共通項目	61
[宛先選択] シート	63
[宛先入力] シート	70
[特別] シート	74
[送信イメージ] シート	76
[デバイスの設定] シート	77
[共有カバーシート] シート	81

設定項目一覧

- ▶ シート共通項目(P. 61)
- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ [特別] シート(P. 74)
- ▶ [送信イメージ] シート(P. 76)
- ▶ [デバイスの設定] シート(P. 77)
- ▶ [共有カバーシート] シート(P. 81)

シート共通項目

よく使う設定をお気に入りとして登録できます。

お気に入りは、[宛先選択] および [特別] シートで設定できます。

[お気に入り]

登録したファクス送信設定を適用します。登録したお気に入りは、編集または削除できます。

赤い点 (●) の付いたお気に入りは、あらかじめ用意されているお気に入りのため、編集および削除できません。

[追加] ▶ [お気に入りの追加] ダイアログボックス



お気に入りとして現在のファクス送信設定を登録します。

[名称] と [アイコン] を設定します。必要に応じて、[コメント] を入力します。現在の設定を一覧で確認したい場合は、[設定確認] をクリックしてください。

[編集] ▶ [お気に入りの編集] ダイアログボックス

お気に入りの内容を編集します。また、ファイルを指定してお気に入りを読み込んだり、現在のお気に入りをファイルに保存したりすることもできます。

[お気に入り一覧]

登録したお気に入りが一覧で表示されます。お気に入りを選択したあと、 (上へ) または  (下へ) をクリックすると、順番を入れ替えられます。

[設定確認] ▶ [設定確認] ダイアログボックス

選択しているお気に入りの内容を、一覧で表示します。また、設定内容をクリップボードにコピーすることもできます。

[削除]

選択しているお気に入りを削除します。

[名称] / [アイコン] / [コメント]

選択しているお気に入りの名前、アイコン、およびコメントを表示します。登録したお気に入りの名前、アイコン、およびコメントを編集できます。

[ファイル読み込み]

ファイル (*.cfg) として保存したお気に入りをインポートして、[お気に入り一覧] に追加します。

[ファイル保存]

[お気に入り一覧] で選択したお気に入りをエクスポートして、ファイル (*.cfg) として保存します。

[アプリケーションの設定を優先させる]

次の項目について、お気に入りよりもアプリケーションでの設定を優先します。

[特別] シート> [原稿サイズ] / [印刷の向き]

この機能を無効にした場合、上記項目は選択したお気に入りの設定で上書きされます。

関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [特別] シート(P. 74)
- ▶ お気に入りを登録する(P. 47)

▶ お気に入り一覧を編集する(P. 48)

[宛先選択] シート

ファクス送信時の宛先を設定したり、アドレス帳を編集したりすることができます。

[アドレス帳の一覧] / [宛先表の一覧]

使用するアドレス帳およびサブアドレス帳を選択します。

選択したアドレス帳にサブアドレス帳がある場合は、[宛先表の一覧] で表示したいサブアドレス帳を選択します。

表示するアドレス帳を選択すると、[宛先表の検索] に宛先の一覧が表示されます。

アドレス帳は、[特別] / [デバイスの設定] シート > [アドレス帳の種類] で登録できます。

赤い点 (●) のついたアドレス帳は、管理者が登録した共有アドレス帳です。プリントサーバーで共有しているデバイスのサーバ側で登録すると、クライアント側でも同じアドレス帳を使用できます。

[アドレス帳の編集]

ローカルフォルダーに保存されているドライバーのアドレス帳を編集します。

ネットワーク上のフォルダーに格納されているアドレス帳は、編集できません。

使用しているコンピューターに Business IJ FAX Driver をインストールしている場合は、アドレス帳 (Canon Fax Driver Address Book) がドライバー間で共有されます。また、アドレス帳の保存先の設定を変更した場合も、変更後の設定が共有されます。

🔴 [アドレス帳の編集] ダイアログボックス(P. 65)

[宛先表の検索]

[アドレス帳の一覧] および [宛先表の一覧] で選択したアドレス帳から目的の宛先を検索します。

一覧の先頭にあるアイコンで、個人 (👤) とグループ (👥) が区別できます。

[グループメンバー] には、選択したグループに登録されている個人やグループが表示されます。

表示する宛先を絞り込んだり、指定した文字列で検索したりすることもできます。

[宛先一覧に追加] ▶ [宛先ファクス番号の選択] ダイアログボックス

アドレス帳に登録されている宛先から、[宛先一覧] に追加します。

[宛先表の検索] にある宛先一覧のエントリをダブルクリックすると、同様に [宛先一覧] に追加されます。

グループに複数のファクス番号が登録されている場合は、[宛先ファクス番号の選択] ダイアログボックスが表示されます。[宛先一覧] に追加するファクス番号を選択してください。

[宛先ファクス番号の選択] ダイアログボックスで選択できる宛先の種類は、[アドレス帳の一覧] で選択しているアドレス帳の種類によって異なります。

[宛先一覧]

ファクス送信する宛先 (またはグループ名) の一覧が表示されます。[宛先数] は、この一覧に追加されている宛先の総数を示しています。

[デバイスの設定] シート > [詳細設定] ダイアログボックス内の [宛先の手入力を許可しない] を有効にしている場合は、[宛先の追加] および [宛先の編集] が使用できません。

[宛先の追加] ▶ [宛先の追加] ダイアログボックス

宛先を新たに入力して設定し、[宛先一覧] に追加します。

[宛先の編集] ▶ [宛先の編集] ダイアログボックス

[宛先一覧] で選択している宛先を編集します。[宛先一覧] でエントリーをダブルクリックすると、同様に宛先を編集できます。

[宛先名]

宛先名を入力します。

[通信モード] / [ファクス番号/URI]

宛先の環境に合った通信モードを選択して、ファクス番号または URI を指定します。

[特別] シート> [セキュリティー設定] で、[宛先の設定時にファクス番号/URI を確認入力する(誤送信防止)] を有効にしている場合に、[ファクス番号の確認入力(誤送信防止)] または [URI の確認入力(誤送信防止)] が表示されます。同じファクス番号または URI を入力してください。

[F コードを使う]

データを、宛先のメモリーボックス内に送信します。

[F コード] と [パスワード] には、宛先のファクスに登録されている値を入力します。送信したデータを宛先のファクスで出力するには、パスワードの入力が必要です。

[デバイスの設定] シート> [詳細設定] で [F コードを使う] を有効にしている場合に指定できます。

[ISDN サブアドレスを指定する]

ISDN 回線のサブアドレス (内線番号) を指定します。「<ファクス番号>/< ISDN サブアドレス>」のファクス番号としてファクス送信されます。

[デバイスの設定] シート> [オプションのファクスボード] で ISDN ボードを選択している場合に指定できます。

[アドレス帳に登録する]

設定した宛先を、アドレス帳 (Canon Fax Driver Address Book) に登録します。

[次の宛先を追加]

宛先を連続して追加します。

[削除]

[宛先一覧] で選択している宛先を削除します。

[送信イメージを保存する]

送信した文書名や送信時刻などを送信イメージとして保存します。送信イメージの履歴を残して管理できます。

履歴は、[送信イメージ] シートで確認できます。

[カバーシート]

カバーシートを設定します。

● [カバーシート] ダイアログボックス(P. 67)

[詳細設定] ▶ [詳細設定] ダイアログボックス

外線接続番号や送信時刻の指定、または使用する回線を設定します。

[G3 回線選択]

ファクス送信に使用する回線を選択します。

[回線名称の変更] ▶ [回線名称の変更] ダイアログボックス

回線ごとの名称を設定します。

[G3/G4/IP ファクス番号に外線接続番号を付ける]

通信モードごとに、ファクス番号に付与する外線接続番号を指定します。

[送信時刻を指定する]

[送信時刻] で指定した時刻にファクス送信します。送信データはデバイスに一時保存され、指定した時刻に送信されます。

この項目を指定するには、[デバイスの設定] シート > [送信時刻を指定する] が有効になっている必要があります。

[ジョブ終了通知]

ファクスの送信結果が、指定したメールアドレスに通知されるようにします。

[デバイスの設定] シート > [[ジョブ終了通知]の設定] での設定内容によっては、設定できる通知の条件が異なります。

通知されるエラーは、デバイスと送信先ファクスの間で発生したものに限定されます。

[エラー時のみ通知] を選択しても、コンピューターとデバイスの間で発生したエラーは通知されません。

正しく送信できたかを確認するには、デバイス側のファクス送信履歴やプリントキューを確認して、コンピューターとデバイス間の送信結果を確認してください。

[アドレス帳の編集] ダイアログボックス

[アドレス帳]

アドレス帳の内容が、一覧で表示されます。[表示する項目] で、表示するカテゴリーを切り替えられます。

[詳細] に、選択している宛先の詳細が表示されます。

[デバイスの設定] シート > [詳細設定] ダイアログボックス内の [宛先の手入力を許可しない] を有効にしている場合は、このダイアログボックス内で宛先を編集できません。

[個人の追加] ▶ [個人の追加] ダイアログボックス

個人の宛先を追加します。最大 3000 人まで追加できます。

[姓] / [名] / [敬称]

宛先の名前を指定します。

[宛先名]

カバーシートに表示する [宛先名] を指定します。指定しない場合は、[姓] / [名] / [敬称] がカバーシートに表示されます。

フリガナを入力しておく、[宛先選択] シート > [宛先表の検索] で、五十音で絞り込むことができます。

[会社名] / [部署名] / [メモ]

必要に応じて、それぞれの項目を入力します。

[会社名] のフリガナを入力しておく、[宛先選択] シート > [宛先表の検索] で、五十音で絞り込むことができます。

[G3/G4 ファクス番号] シート

[第 1 優先番号] / [第 2 優先番号]

宛先のファクス番号を入力します。ハイフン「-」を入力した場合、デバイスにはハイフンを除いた番号が送信されます。

それぞれ [用途] に任意の文字列を入力できます。

[特殊機能]

F コードや ISDN 回線のサブアドレス（内線番号）機能の使用状況が表示されます。

[設定] ▶ [特殊機能の設定] ダイアログボックス

F コード機能や ISDN 回線のサブアドレス（内線番号）機能を使用するために必要な詳細情報を設定します。

[IP ファクス番号] シート

[通信モード] / [ファクス番号/URI]

宛先の環境に合った通信モードを選択して、ファクス番号または URI を指定します。

[F コードを使う]

データを、宛先のメモリーボックス内に送信します。

[F コード] と [パスワード] には、宛先のファクスに登録されている値を入力してください。

送信したデータを宛先のファクスで出力するには、パスワードの入力が必要です。

[用途]

任意の文字列を入力できます。

[グループの追加] ▶ [グループの追加] ダイアログボックス

グループの宛先を追加します。最大 3000 グループまで追加できます。

[グループ名]

追加するグループの名称を入力します。

フリガナを入力しておく、[宛先選択] シート> [宛先表の検索] で、五十音で絞り込むことができます。

[追加する宛先]

[選択可能な宛先一覧] に、グループに追加できる宛先の一覧が表示されます。

[表示する項目] で、個人とグループの表示を切り替えられます。

[追加]

[選択可能な宛先一覧] で選択している宛先を、グループのメンバーに追加します。

[削除]

[グループメンバー] で選択している宛先を、グループのメンバーから削除します。

[詳細]

[グループメンバー] には、グループに登録されている個人またはグループが表示されます。

[メモ] には、追加するグループについてのメモを入力できます。

[編集] ▶ [個人の編集] / [グループの編集] ダイアログボックス

選択している項目を編集します。

編集できる項目は、追加するときの項目と同様です。

[削除]

選択している宛先をアドレス帳から削除します。

[フォルダー指定]

ドライバーのアドレス帳（Canon Fax Driver Address Book）を保存するフォルダーを指定します。

ネットワーク上のフォルダーを指定した場合は、参照だけです。編集やインポートはできません。

[ファイル読み込み]

他のアプリケーションで使用していたアドレス帳の内容を、このドライバーのアドレス帳にインポートします。

インポートできる宛先は、個人およびグループで、それぞれ 3000 件までです。

インポートできるファイル形式を次に示します。

- CSV ファイル (*.csv)
- Canon Address Book (*.abk)
- デバイス設定値情報ファイル (*.dcm)

CSV 形式のファイルを読み込むときには、区切り文字を指定できます。指定できる記号は、次の半角文字です。

!#\$%&'()*+,-./:;<=>?

[個人の宛先重複を確認する(グループは読み込み対象外)] を有効にしてインポートする場合、個人の宛先情報のうち、次の内容の組み合わせが重複していないかを確認します。

- [宛先名]
- 通信モード (G3/G4 または IP ファクス用)
- [ファクス番号] または [URI] のどちらを使用しているかとその値

[ファイル保存]

このドライバーのアドレス帳の内容を、他のファイル形式に保存します。

保存したファイルは、他のアプリケーションで使用したり、アドレス帳の内容をバックアップしたりするときに便利です。

保存できるファイル形式を次に示します。

- CSV ファイル (*.csv)
- Canon Address Book (*.abk)

CSV 形式で保存するときには、区切り文字を指定できます。指定できる記号は、次の半角文字です。

!#\$%&'()*+,-./:;<=>?

Canon Address Book で保存するときには、ANSI または UTF-8 どちらかの文字コードを指定できます。

[特別] シート> [セキュリティ設定] で、[宛先表のエクスポートをパスワードで保護する] を有効にしている場合に、アドレス帳の内容を保存する前に、パスワードの入力を促すダイアログボックスが表示されます。

[バージョン情報]

ドライバーのバージョン情報を表示します。



[\[アドレス帳の編集\] \(P. 63\) へ戻る](#)

[カバーシート] ダイアログボックス

[カバーシートの添付]

カバーシートを添付するかどうかを指定します。添付する場合、カバーシートに、宛先ごとの情報を表示するか、宛先すべての情報を表示するかのどちらかを選択できます。

[使用するカバーシート]

カバーシートのテンプレートを選択します。

赤い点 (●) の付いたテンプレートは共有カバーシートです。共有カバーシートは、プリントサーバーで共有しているデバイスのサーバ側で、[共有カバーシート] シートから登録できます。

[登録] ▶ [カバーシートの登録] ダイアログボックス

カバーシートのテンプレートを登録します。

テンプレートは、デフォルトテンプレートを除いて、30 件まで登録できます。

[使用するカバーシート]

登録されているカバーシートのテンプレートが一覧で表示されます。

また、[プレビュー] をクリックすると、詳細なプレビューが表示されます。

[カバーシートの登録]

Cover Sheet Editor で作成したカバーシート (*.cse) を登録します。

[リカバリー]

削除されたデフォルトテンプレートを再登録します。

[削除]

[使用するカバーシート] で選択しているカバーシートを削除します。

[記載する項目]

カバーシートに表示する項目の内容が表示されます。

[設定] ▶ [カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックス

カバーシートに表示する項目を設定します。

[発信元] シート

発信元に関する情報をカバーシートに表示します。

[発信元情報読み込み] および [発信元情報保存] をクリックすると、発信元情報をファイルから読み込んだり、ファイルに保存したりすることができます。読み込むことができるファイルと保存できるファイルは、共に、カンマ区切りの CSV 形式のファイルです。

[宛先] シート

宛先に関する情報をカバーシートに表示します。

有効にした項目には、[宛先選択] シートで設定した値が表示されます。

[ロゴ] / [署名] シート

ロゴまたは署名をカバーシートに表示します。

ロゴまたは署名は、BMP 形式のファイルで指定できます。

[参照] をクリックして、使用するファイルを選択します。

選択しているファイルのプレビューを確認しながら、倍率と座標を調整できます。

[詳細設定] シート

送信枚数または件数をカバーシートに表示します。

送信枚数は、自動カウントされません。このシートで入力した枚数が、カバーシートに表示されます。

[注目ラベルを付ける]

カバーシートに「至急」などのラベルを表示します。

[ラベル] はリストから選択するか、任意の文字列を入力します。

[記載するコメント]

カバーシートに表示するコメントを入力します。

[プレビュー]

選択しているテンプレートおよび記載する項目などが反映されたカバーシートのプレビューを表示します。



[\[カバーシート\] \(P. 64\) へ戻る](#)

関連項目

- ▶ [特別] シート(P. 74)
- ▶ [送信イメージ] シート(P. 76)
- ▶ [デバイスの設定] シート(P. 77)
- ▶ [共有カバーシート] シート(P. 81)
- ▶ ファクス送信で利用できる通信方法について(P. 20)
- ▶ カバーシートを付ける(P. 21)
- ▶ Cover Sheet Editor について (P. 89)
- ▶ 親展送信を設定する(P. 24)
- ▶ 送信履歴を管理する(P. 26)
- ▶ ドライバーのアドレス帳に個人のアドレスを追加する(P. 32)
- ▶ ドライバーのアドレス帳にグループを追加する(P. 33)
- ▶ お気に入り登録する(P. 47)

[宛先入力] シート

ファクス送信時に、宛先情報を 1 件ずつ指定できます。

「*」のついた項目は、必ず指定してください。

[デバイスの設定] シート > [詳細設定] ダイアログボックス内の [宛先の手入力を許可しない] を有効にしている場合は、このシートは表示されません。

[* 通信モード] / [* ファクス番号/URI]

宛先の環境に合った通信モードを選択して、ファクス番号または URI を指定します。

[特別] シート > [セキュリティ設定] で、[宛先の設定時にファクス番号/URI を確認入力する(誤送信防止)] を有効にしている場合に、[ファクス番号の確認入力(誤送信防止)] または [URI の確認入力(誤送信防止)] が表示されます。同じファクス番号または URI を入力してください

[宛先名]

宛先名を入力します。

[F コードを使う]

データを、宛先のメモリーボックス内に送信します。

[F コード] と [パスワード] には、宛先のファクスに登録されている値を入力します。送信したデータを宛先のファクスで出力するには、パスワードの入力が必要です。

[デバイスの設定] シート > [詳細設定] で [F コードを使う] を有効にしている場合に指定できます。

[ISDN サブアドレスを指定する]

ISDN 回線のサブアドレス (内線番号) を指定します。「<ファクス番号>/< ISDN サブアドレス>」のファクス番号としてファクス送信されます。

[デバイスの設定] シート > [オプションのファクスボード] で ISDN ボードを選択している場合に指定できます。

[アドレス帳に追加]

設定した宛先を、アドレス帳 (Canon Fax Driver Address Book) に登録します。

[送信イメージを保存する]

送信した文書名や送信時刻などを送信イメージとして保存します。送信イメージの履歴を残して管理できます。

履歴は、[送信イメージ] シートで確認できます。

[カバーシート]

カバーシートを設定します。

🔴 [カバーシート] ダイアログボックス(P. 71)

[詳細設定] ▶ [詳細設定] ダイアログボックス

外線接続番号や送信時刻の指定、または使用する回線を設定します。

[G3 回線選択]

ファクス送信に使用する回線を選択します。

[回線名称の変更] ▶ [回線名称の変更] ダイアログボックス

回線ごとの名称を設定します。

[G3/G4/IP ファクス番号に外線接続番号を付ける]

通信モードごとに、ファクス番号に付与する外線接続番号を指定します。

[送信時刻を指定する]

[送信時刻] で指定した時刻にファクス送信します。送信データはデバイスに一時保存され、指定した時刻に送信されます。

この項目を指定するには、[デバイスの設定] シート > [送信時刻を指定する] が有効になっている必要があります。

[ジョブ終了通知]

ファクスの送信結果が、指定したメールアドレスに通知されるようにします。

[デバイスの設定] シート > [[ジョブ終了通知]の設定] での設定内容によっては、設定できる通知の条件が異なります。

通知されるエラーは、デバイスと送信先ファクスの間で発生したものに限定されます。

[エラー時のみ通知] を選択しても、コンピューターとデバイスの間で発生したエラーは通知されません。

正しく送信できたかを確認するには、デバイス側のファクス送信履歴やプリントキューを確認して、コンピューターとデバイス間の送信結果を確認してください。

[カバーシート] ダイアログボックス

[カバーシートの添付]

カバーシートを添付するかどうかを指定します。添付する場合、カバーシートに、宛先ごとの情報を表示するか、宛先すべての情報を表示するかのどちらかを選択できます。

[使用するカバーシート]

カバーシートのテンプレートを選択します。

赤い点 (●) の付いたテンプレートは共有カバーシートです。共有カバーシートは、プリントサーバーで共有しているデバイスのサーバ側で、[共有カバーシート] シートから登録できます。

[登録] ▶ [カバーシートの登録] ダイアログボックス

カバーシートのテンプレートを登録します。

テンプレートは、デフォルトテンプレートを除いて、30 件まで登録できます。

[使用するカバーシート]

登録されているカバーシートのテンプレートが一覧で表示されます。

また、[プレビュー] をクリックすると、詳細なプレビューが表示されます。

[カバーシートの登録]

Cover Sheet Editor で作成したカバーシート (*.cse) を登録します。

[リカバリー]

削除されたデフォルトテンプレートを再登録します。

[削除]

[使用するカバーシート] で選択しているカバーシートを削除します。

[記載する項目]

カバーシートに表示する項目の内容が表示されます。

[設定] ▶ [カバーシートに記載する項目の設定] ダイアログボックス

カバーシートに表示する項目を設定します。

[発信元] シート

発信元に関する情報をカバーシートに表示します。

[発信元情報読み込み] および [発信元情報保存] をクリックすると、発信元情報をファイルから読み込んだり、ファイルに保存したりすることができます。読み込むことができるファイルと保存できるファイルは、共に、カンマ区切りの CSV 形式のファイルです。

[宛先] シート

宛先に関する情報をカバーシートに表示します。

有効にした項目には、[宛先選択] シートで設定した値が表示されます。

[ロゴ] / [署名] シート

ロゴまたは署名をカバーシートに表示します。

ロゴまたは署名は、BMP 形式のファイルで指定できます。

[参照] をクリックして、使用するファイルを選択します。

選択しているファイルのプレビューを確認しながら、倍率と座標を調整できます。

[詳細設定] シート

送信枚数または件名をカバーシートに表示します。

送信枚数は、自動カウントされません。このシートで入力した枚数が、カバーシートに表示されます。

[注目ラベルを付ける]

カバーシートに「至急」などのラベルを表示します。

[ラベル] はリストから選択するか、任意の文字列を入力します。

[記載するコメント]

カバーシートに表示するコメントを入力します。

[プレビュー]

選択しているテンプレートおよび記載する項目などが反映されたカバーシートのプレビューを表示します。



[カバーシート] (P. 70) へ戻る

関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [特別] シート(P. 74)
- ▶ [送信イメージ] シート(P. 76)
- ▶ [デバイスの設定] シート(P. 77)
- ▶ [共有カバーシート] シート(P. 81)
- ▶ ファクス送信で使用できる通信方法について(P. 20)
- ▶ カバーシートを付ける(P. 21)
- ▶ Cover Sheet Editor について (P. 89)
- ▶ 親展送信を設定する(P. 24)
- ▶ 送信履歴を管理する(P. 26)

[特別] シート

送信したデータについて、送信先で印刷されるときのページレイアウトや解像度などを設定できます。

また、送信ミスを防ぐためにファクス番号や URI を再度入力させることができます。アドレス帳を保護するためのセキュリティ設定を行うこともできます。

[原稿サイズ]

アプリケーションで作成した送信データの用紙サイズを選択します。

[印刷の向き]

送信したデータが印刷されるときの向きを選択します。

[ページレイアウト]

送信したデータが 1 枚の用紙に印刷されるときのページ数を指定します。画面横のプレビューをクリックして設定することもできます。

複数ページを印刷するよう指定した場合は、[配置順] を選択できます。

[解像度]

ファクス送信するときの解像度を選択します。

[誤差拡散]

ファクス送信データの画質を改善します。

外部の機能との連携のため、出力画質を補正したい場合は、この機能をおためしてください。

[補正パターン]

[誤差拡散] を有効にしたとき、この項目でコントラストの強さを設定できます。

「コントラスト」とは、画像の明暗差のことです。コントラストを強くすると、画像の明暗差が大きくなり、はっきりとした画像になります。

[コントラスト強調(なし)]

コントラストを補正しません。

[コントラスト強調(弱)]

コントラストをやや強く設定します。

[コントラスト強調(強)]

コントラストを強く設定します。

[セキュリティ設定] ▶ [セキュリティ設定] ダイアログボックス

宛先確認の設定、またはアドレス帳をファイルに保存（エクスポート）する際の保護設定を行います。

設定すると、各操作の際にファクス番号やパスワードの入力を促すダイアログボックスが表示されます。

[アドレス帳の種類] ▶ [アドレス帳の種類] ダイアログボックス

送信時に参照するアドレス帳を登録します。名称など、アドレス帳の属性を変更することもできます。

[登録されているアドレス帳の種類]

登録されているアドレス帳が一覧で表示されます。

[登録] ▶ [アドレス帳の登録] ダイアログボックス

[選択可能なアドレス帳] から登録したいアドレス帳を選択して登録します。

Canon Fax Driver Address Book はこのドライバーのアドレス帳です。登録しなくても使用できます。

Canon Device Address Book は、最大 10 個まで登録できます。

登録できるアドレス帳の詳細については、次のリンク先を参照してください。

▶ アドレス帳の種類について(P. 36)

[変更] ▶ 追加/変更ダイアログボックス

選択しているアドレス帳の名前などを変更します。変更できる項目はアドレス帳の種類によって異なります。

[削除]

選択しているアドレス帳を削除します。Canon Fax Driver Address Book 以外のアドレス帳を削除できます。

[標準に戻す]

設定値をドライバーのデフォルト値に戻します。

関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ ドライバーのアドレス帳をインポート/エクスポートする(P. 38)
- ▶ デバイスやほかのアプリケーションのアドレス帳を登録する(P. 40)
- ▶ お気に入りを登録する(P. 47)
- ▶ お気に入り一覧を編集する(P. 48)

[送信イメージ] シート

送信データの画像、送信時刻、宛先など保存された送信履歴を管理できます。

[イメージを表示するドライバー]

複数のデバイスでこのドライバーを使用している場合、[送信イメージ] に表示する履歴の一覧を切り替えます。

[送信イメージ]

ファクスの送信履歴が一覧で表示されます。

複数ページの場合は、[前へ] や [次へ] でページを切り替えることができます。また、複数の宛先に送信したファクスの送信履歴は、宛先ごとに表示を切り替えられます。

[拡大] をクリックすると、選択した送信履歴を拡大して確認できます。

[送信時刻] は、ドライバーからデバイスに送信した時刻です。デバイスから実際にファクス送信した時刻とは異なります。

[すべて削除]

すべての履歴を削除します。

[削除]

選択している履歴を削除します。

[更新]

履歴を最新の状態に更新します。

[宛先一覧]

選択している履歴の宛先が表示されます。

[保存の設定] ▶ [保存の設定] ダイアログボックス

送信イメージの保存先や、送信イメージを保存できる最大数を設定します。

保存先は、ローカルフォルダーだけ指定できます。

保存できる最大数は、32 件から 1024 件までの間で選択できます。

1 件あたりのデータ容量の目安は数十 KB です。

関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ 送信履歴を管理する(P. 26)

[デバイスの設定] シート

デバイスのオプションや認証方法などの情報を設定できます。

また、このシートの [ユーザー管理機能] で認証情報を確認するよう設定した場合は、ファクス送信時に確認ダイアログボックスが表示されます。

ここでは、[デバイスの設定] シートと、認証情報を確認するダイアログボックスの項目について説明します。

各項目の説明

[発信元]

ファクスのヘッダーに表示する発信元名を入力します。

[オプションのファクスボード]

デバイスに装着されているファクスボードを選択します。

[モデムダイヤルイン設定] ▶ [モデムダイヤルイン設定] ダイアログボックス
回線ごとにモデムダイヤルインを有効にします。

[F コードの認証] / [部門別 ID 管理の認証]

それぞれの認証モードを選択します。

デバイス側で設定している認証方法に合わせて設定してください。

[内部スプール処理]

データの処理を、ホスト（コンピューター）側で行うか、デバイス側で行うか選択します。

[ユーザー管理機能]

使用する認証機能の種類を設定します。

[設定] ▶ [部門 ID/暗証番号の設定] ダイアログボックス
[ユーザー管理機能] で [部門別 ID 管理] を選択したときの詳細を設定します。

[暗証番号の設定を許可する]

[暗証番号] を設定する場合に有効にします。

デバイスをプリントサーバーで共有している環境で、クライアント側の暗証番号の設定を無効にしたい場合は、サーバー側のこの項目を無効にしてください。

[部門 ID]

デバイス側で設定されている部門 ID を設定します。

[暗証番号]

部門別 ID 管理の暗証番号を設定します。暗証番号がデバイス側で設定されていない場合は、空欄にします。

[照会]

入力した部門 ID と暗証番号が、デバイス側で設定された内容と合っているかどうかを照会します。

[ファクス送信時に認証情報を確認する]

ファクス送信時に、部門 ID および暗証番号を設定したり、確認したりするためのダイアログボックスを表示します。

[設定] ▶ [ユーザー認証の設定] ダイアログボックス

[ユーザー管理機能] で [ユーザー認証] を選択したときの詳細を設定します。

[パスワードの設定を許可する]

[パスワード] を設定する場合に有効にします。

ここでパスワードを設定しない場合は、ファクス送信時にパスワードを入力します。

[ユーザー名]

ユーザー認証に使用するユーザー名を設定します。

[パスワード]

ユーザー認証に使用するパスワードを設定します。パスワードがデバイス側で設定されていない場合は、空欄にします。

[照会]

入力したパスワードが、デバイス側で設定された内容と合っているかどうかを照会します。

[ファクス送信時に認証情報を確認する]

ファクス送信時に、ユーザー名およびパスワードを設定したり、確認したりするためのダイアログボックスを表示します。

[ユーザー情報を設定する]

デバイスのファクス送信履歴に表示されるユーザー名を設定します。

[設定] ▶ [ユーザー情報の設定] ダイアログボックス

[ユーザー名]

ファクス送信ジョブで使用するユーザー名を設定します。

[ユーザー名の管理] ▶ [ユーザー名の管理] ダイアログボックス

デフォルトで使用するユーザー名を設定します。

[ユーザー名に設定する名称]

ユーザー名として、Windows のログオン名、コンピューター名、または任意の名称を指定します。

[ユーザー名の変更を許可しない]

[ユーザー情報の設定] ダイアログボックスでユーザー名を変更できないようにします。

[IP ファクス通信モード] ▶ [IP ファクス通信モードの設定] ダイアログボックス

デバイスで使用できる通信モードを設定します。IP ファクスの接続環境については、デバイスのマニュアルを参照してください。

[送信時刻を指定する]

ファクス送信する時刻を、[宛先選択] または [宛先入力] シート> [詳細設定] で指定できるようにします。

[ジョブ終了通知]の設定]

ファクスの送信結果が、指定したメールアドレスに通知されるようにします。

ここで有効にした項目が、[宛先選択] または [宛先入力] シート > [詳細設定] で設定できるようになります。

[一度に指定できる宛先数を 2000 件にする]

同時に指定できる宛先の最大数を 2000 件に拡張します。

[Unicode(UTF-8)でデバイスと通信する]

ユーザー情報など内部情報を Unicode (UTF-8) でデバイスと通信します。

[アドレス帳の種類] ▶ [アドレス帳の種類] ダイアログボックス

送信時に参照するアドレス帳 (Canon Device Address Book) を登録します。名称など、アドレス帳の属性を変更することもできます。

プリントサーバーでデバイスを共有している場合、サーバー側の設定で、この項目からアドレス帳を登録すると、クライアント側でも同じアドレス帳を使用できます。

[登録されているデバイスアドレス帳]

登録されているアドレス帳が一覧で表示されます。

[登録] / [変更] ▶ [Canon Device Address Book の追加/変更] ダイアログボックス

登録するアドレス帳の名前とファイルの格納先パスを指定します。

Canon Device Address Book は、最大 10 個まで登録できます。

[変更] をクリックすると、登録したアドレス帳の名前とファイルの格納先パスを変更できます。

登録できるアドレス帳の詳細については、次のリンク先を参照してください。

▶ [アドレス帳の種類について\(P. 36\)](#)

[削除]

選択しているアドレス帳を削除します。

[詳細設定] ▶ [詳細設定] ダイアログボックス

ファクス送信に関する詳細機能を設定します。

ファクスの誤送信を防ぐため、ファクス送信時に確認メッセージを表示する機能や、宛先の手入力を禁止する機能を設定できます。

[詳細設定] の項目は、デバイス情報を取得しても設定されません。手動で設定してください。

[デバイス情報取得]

デバイス情報を取得して、各設定項目に反映します。

[バージョン情報]

ドライバーのバージョン情報を表示します。

認証情報確認ダイアログボックス

[部門 ID/暗証番号の確認] ダイアログボックス

[部門 ID]

デバイス側で設定されている部門 ID を設定します。

[暗証番号]

部門別 ID 管理の暗証番号を設定します。暗証番号がデバイス側で設定されていない場合は、空欄にします。

[ユーザー名/パスワードの確認] ダイアログボックス

[ユーザー名]

ユーザー認証に使用するユーザー名を設定します。

[パスワード]

ユーザー認証に使用するパスワードを設定します。パスワードがデバイス側で設定されていない場合は、空欄にします。

関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ ファクス送信で使用できる通信方法について(P. 20)
- ▶ 親展送信を設定する(P. 24)
- ▶ デバイスやほかのアプリケーションのアドレス帳を登録する(P. 40)
- ▶ デバイス情報を設定する(P. 52)
- ▶ 認証機能を設定する(P. 55)
- ▶ ユーザー名を設定する(P. 57)
- ▶ デバイス情報取得機能/認証機能を使用できない(P. 84)

[共有カバーシート] シート

プリントサーバーで共有しているデバイスに登録したカバーシートを、クライアント側でも使用できるようにします。

[共有するカバーシート]

登録されているカバーシートのテンプレートが、一覧で表示されます。

また、[プレビュー] をクリックすると、詳細なプレビューが表示されます。

[登録] ▶ [共有カバーシートの登録] ダイアログボックス

Cover Sheet Editor で作成したカバーシート (*.cse) を登録します。

[削除]

[共有するカバーシート] で選択しているカバーシートを削除します。

関連項目

- ▶ [宛先選択] シート(P. 63)
- ▶ [宛先入力] シート(P. 70)
- ▶ カバーシートを付ける(P. 21)
- ▶ Cover Sheet Editor について (P. 89)

トラブルシューティング

トラブルシューティング	83
デバイス情報取得機能/認証機能を使用できない	84
アドレス帳を参照/編集できない	86

トラブルシューティング

よくあるトラブルの解決方法を紹介します。

- ▶ デバイス情報取得機能/認証機能を使用できない(P. 84)
- ▶ アドレス帳を参照/編集できない(P. 86)

デバイス情報取得機能/認証機能を使用できない

デバイス情報を取得できない場合、部門別 ID 管理機能を使用できない場合、またはユーザー認証機能を使用できない場合は、次の内容を確認してください。

原因 1.

デバイスが起動していない、またはケーブルが正しく接続されていない。

対処

デバイスの状態を確認してください。

原因 2.

接続環境に合わせて設定されていない。

対処

デバイスで印刷できる範囲を確認して、使用しているアプリケーションで送信データを修正してください。

プリントサーバー環境の場合

- ドライバーのインストーラーを使用して、Canon Driver Information Assist Service をサーバーコンピューターにインストールしてください。
- 使用している OS の CD-ROM から、プロトコルとして TCP/IP を使用環境にインストールしてください。

デバイスを USB 接続またはポート接続した環境の場合

デバイス情報取得、部門別 ID 管理、およびユーザー認証の機能は、使用できません。また、次のポート接続環境でも使用できません。

- SMB 機能を利用して、デバイスに直接接続されている
- 対象のデバイスから表示した、Windows のプリンタープロパティ画面 * > [ポート] シートにある [プリンターブールを有効にする] が有効である

デバイス情報取得、部門別 ID 管理、およびユーザー認証の機能は、TCP/IP ネットワーク接続環境など、別の接続環境で使用してください。

原因 3.

デバイス名が長すぎる。


対処

Windows のプリンター一覧に登録されているデバイスの名前が、次の文字数を超えていないか確認してください。

- デバイスの名称：半角 209 文字以内
- 共有名：半角 260 文字以内

超えている場合は、Windows のプリンタープロパティ画面 * > [全般] / [共有] シートで、名前を変更してください。

* Windows のプリンタープロパティ画面は、次の手順で表示できます。

- (1) スタートメニューの [ 設定] から、[Bluetoothとデバイス]（または [デバイス]）を表示
- (2) [プリンターとスキャナー] から、設定するデバイスの管理画面を表示
デバイスをクリック、またはデバイスに対応する [管理] をクリックして表示してください。
- (3) 設定するデバイスの [プリンターのプロパティ] をクリック

関連項目

- ▶ [デバイス情報を設定する\(P. 52\)](#)
- ▶ [認証機能を設定する\(P. 55\)](#)

アドレス帳を参照/編集できない

ドライバーに登録されているアドレス帳の参照や編集ができない場合は、次の原因が考えられます。「対処」の内容に沿って対応してください。

原因

アドレス帳の保存先フォルダーにアクセス権限がない。

対処 1.

管理者に依頼して、保存先フォルダーのアクセス権限を取得してください。

対処 2.

[宛先選択] シート > [アドレス帳の編集] ダイアログボックス > [フォルダー指定] で、アドレス帳の保存先をアクセス権限のあるフォルダーに変更してください。

関連項目

- ▶ [アドレス帳の編集] ダイアログボックス(P. 65)
- ▶ ドライバーのアドレス帳に個人のアドレスを追加する(P. 32)
- ▶ ドライバーのアドレス帳にグループを追加する(P. 33)
- ▶ ドライバーのアドレス帳をインポート/エクスポートする(P. 38)

カスタマイズしたカバーシートの作成

カスタマイズしたカバーシートの作成	88
Cover Sheet Editor について	89
カバーシートのフィールドとは	90
複数の相手先情報をカバーシートに表示する	91
[ファイル] メニュー (Cover Sheet Editor)	93
[編集] メニュー (Cover Sheet Editor)	94
[表示] メニュー (Cover Sheet Editor)	96
[挿入] メニュー (Cover Sheet Editor)	98
[描画] / [レイアウト] メニュー (Cover Sheet Editor)	100

カスタマイズしたカバーシートの作成

- ▶ Cover Sheet Editor について (P. 89)
- ▶ カバーシートのフィールドとは (P. 90)
- ▶ 複数の相手先情報をカバーシートに表示する (P. 91)
- ▶ [ファイル] メニュー (Cover Sheet Editor) (P. 93)
- ▶ [編集] メニュー (Cover Sheet Editor) (P. 94)
- ▶ [表示] メニュー (Cover Sheet Editor) (P. 96)
- ▶ [挿入] メニュー (Cover Sheet Editor) (P. 98)
- ▶ [描画] / [レイアウト] メニュー (Cover Sheet Editor) (P. 100)

Cover Sheet Editor について

Canon Cover Sheet Editor は、オリジナルのカバーシートを作成するためのアプリケーションです。このマニュアルでは、Cover Sheet Editor と呼びます。

このアプリケーションで作成したカバーシートをドライバーに登録すると、ファクス送信時に使用できます。



- Cover Sheet Editor とファクスドライバーは、インストーラーが異なります。Cover Sheet Editor のインストーラーは、キヤノンホームページ (<https://canon.jp/>) または付属の CD-ROM から入手できます。
- Cover Sheet Editor のインストール方法については、インストーラーと同じ場所にある Readme ファイルを参照してください。

特長

- 送信元や相手先の情報などがファクス送信時に置き換えられる項目（フィールド）を、カバーシートに配置できる
 - 複数の相手先情報を繰り返して表示する、フィールドの繰り返し機能を使用できる
 - さまざまなフォント、スタイル、サイズのテキスト、および各種描画オブジェクトやイメージファイルを挿入および編集できる
- 各種描画オブジェクト（直線、四角形、角丸四角形、楕円）、イメージ、テキストボックス、およびテキストを、Cover Sheet Editor の説明ではオブジェクトと呼びます。

カバーシート作成から保存までの流れ

カバーシートのレイアウトを決めたら、以下の手順でカバーシートを作成します。

(1) カバーシートの作成

[ファイル] メニュー > [新規作成] または [開く] でカバーシートを開きます。

(2) イメージ、テキスト、および描画オブジェクトの配置

主に [編集] / [挿入] / [描画] メニューを使用します。

(3) カバーシートの保存

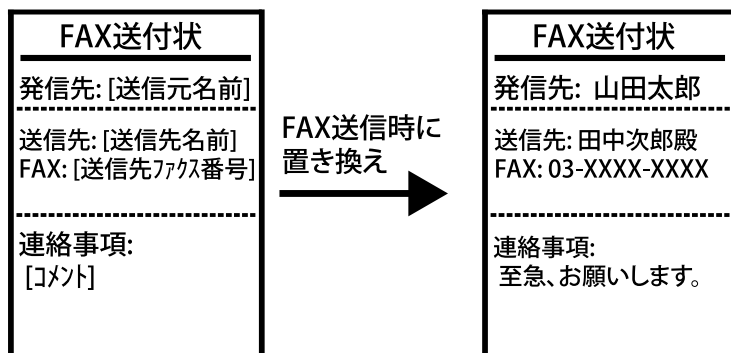
[ファイル] メニュー > [上書き保存] または [名前を付けて保存] でカバーシートを保存します。

カバーシートのフィールドとは

フィールドとは、ファクス送信時に実際の文字列に置き換えられる項目です。

カバーシート上に送信者名や送信先名などのフィールドを設定しておく、ファクス送信時に、ドライバーで指定した実際の送信者名や送信先名などに自動的に置き換えた結果が送信されます。

フィールドを設定したカバーシートを1枚用意しておけば、送信先ごとに送信者名やファクス番号などをカバーシート上に都度入力することなく、複数の送信先に使用できます。



フィールドとして設定できる項目を以下に示します。

- 送信元の情報
送信者名、ファクス番号、会社名、部署名
- 相手先の情報
送信先名、ファクス番号、会社名、部署名、繰り返し始め^{*1}、繰り返し終わり^{*1}
- 送信枚数、注目ラベル、コメント、件名^{*2}

^{*1} 相手先情報を繰り返して表示する範囲を示すために挿入します。

^{*2} 件名フィールドは、「[件名]」と記入したテキストボックスを使用します。

関連項目

- [\[挿入\] メニュー \(Cover Sheet Editor\) \(P. 98\)](#)

複数の相手先情報をカバーシートに表示する

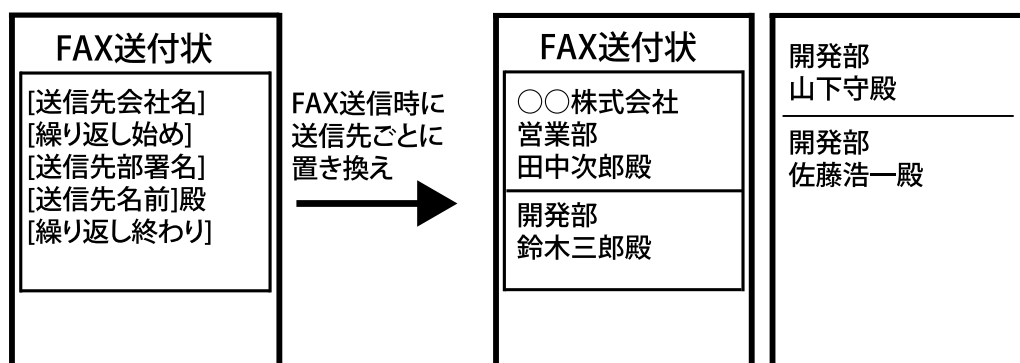
挿入した相手先情報のフィールドを、複数回繰り返してカバーシートに表示されるようにします。

複数の部署に送信する場合など、1つの相手先情報フィールドに対して部署名や担当者名などを繰り返し設定します。

繰り返し設定を行ったフィールドは、ドライバーで指定した送信先の数だけ繰り返して実際のデータと置き換えられます。

繰り返し指定のフィールドは、通常のフィールドと同様に挿入できます。

ここでは、あらかじめ相手先情報のフィールドが挿入されたテキストボックスを作成してある場合の手順を説明します。



操作手順

- 1 [挿入] メニュー > [相手先の情報] から、必要な項目のフィールドが挿入されたテキストボックスを作成
- 2 繰り返し設定したい相手先情報フィールドの先頭に、テキスト編集カーソルを合わせる
- 3 [挿入] メニュー > [相手先の情報] > [繰り返し始め] を選択
- 4 繰り返し設定したい相手先情報フィールドの最後に、テキスト編集カーソルを合わせる
- 5 [挿入] メニュー > [相手先の情報] > [繰り返し終わり] を選択



- ファクス送信時に実際のデータに置き換えられた結果、テキストボックス内にデータが収まらない場合は、新規ページを自動的に作成し、そのページの先頭から続きのデータが表示されます。
- 送信先ごとに区切り線を表示して、見やすくできます。
区切り線を表示する場合は、[挿入] メニュー > [相手先の情報] > [区切り線] を選択し、表示されたダイアログボックスで [繰り返しを線で区切る] を有効にします。

関連項目

- ▶ [\[挿入\] メニュー \(Cover Sheet Editor\) \(P. 98\)](#)
- ▶ [カバーシートのフィールドとは \(P. 90\)](#)

[ファイル] メニュー (Cover Sheet Editor)

カバーシートを、作成、保存、および印刷できます。既存のカバーシートを開くこともできます。

[新規作成] ▶ [新規作成] ダイアログボックス

新しいカバーシートを作成します。

ダイアログボックスの [用紙サイズ] で、作成するカバーシートの用紙サイズを選択します。

[開く] ▶ [ファイルを開く] ダイアログボックス

保存されたカバーシートを開きます。メニューの履歴を選択して開くこともできます。

ダイアログボックス内の [プレビュー] を有効にすると、カバーシートのイメージが表示されます。

[閉じる]

手前に開いているカバーシートを閉じます。

[上書き保存]

手前に開いているカバーシートを保存します。

[名前を付けて保存] ▶ [名前を付けて保存] ダイアログボックス

手前に開いているカバーシートを、ファイル名と格納場所を指定して保存します。

ファイル拡張子は自動的に「.cse」になります。

[印刷] ▶ [印刷] ダイアログボックス

カバーシートを印刷します。

カバーシートは1枚のシートのため、ダイアログボックスの [印刷範囲] は、常に [すべて] になります。

[終了]

Cover Sheet Editor を終了します。

[編集] メニュー (Cover Sheet Editor)

オブジェクトの編集に関する機能を選択できます。各オブジェクトの属性（プロパティ）を設定することもできます。

シート内で右クリックすると、関連する機能がポップアップメニューに表示されます。表示される機能は、右クリックする対象によって異なります。

[元に戻す] / [やり直し]

1つ前の操作結果を元に戻したり、元に戻した操作をやり直したりします。

[切り取り] / [コピー] / [貼り付け]

選択したオブジェクトを移動またはコピーします。



メモ

- [Shift] キーを押しながらオブジェクトをドラッグすると、水平方向または垂直方向に移動します。
- オブジェクトを選択した状態で矢印キーを押すと、0.1mm 単位で移動します。[Shift] キーを押しながら矢印キーを押すと、グリッドを適合しているときはグリッド間隔の 1/2 単位、グリッドを適合していないときは 2.0mm 単位で移動します。
- [Ctrl] キーを押しながら、選択したオブジェクトをコピー先までドラッグすることで、同一のカバーシート内にコピーできます。

[削除]

選択したオブジェクトを削除します。[Delete] キーを押すと、同様に削除できます。

[すべて選択] / [選択の解除]

オブジェクトの選択状態を切り替えます。

[すべて選択] を実行すると、カバーシート内のすべてのオブジェクトを選択します。



メモ

- [Shift] キーを押しながら、カーソルをドラッグしたりオブジェクトをクリックしたりすることで、複数のオブジェクトを同時に選択または選択解除できます。
- [Tab] キー、または [Shift] と [Tab] キーを同時に繰り返し押すと、選択されるオブジェクトが切り替わります。

[複製]

選択したオブジェクトを複製します。

[プロパティ] ▶ [テキストのプロパティ] / [テキストボックスのプロパティ] / 「各種描画オブジェクトのプロパティ」ダイアログボックス

オブジェクトの属性を設定します。選択したオブジェクトに応じたプロパティダイアログボックスが表示されます。

テキストの場合

フォントやスタイルなどのテキスト属性を変更します。ダイアログボックスの [プレビュー] で、設定した内容を確認しながら変更できます。

1つのテキストボックス内にあるすべてのテキストの属性がまとめて変更されます。テキストボックス内にフィールドがある場合は、同様に変更されます。

テキストボックス/各種描画オブジェクトの場合

線の種類や色、背景色を変更します。

テキストボックスの枠線上、または描画オブジェクトをダブルクリックしてプロパティダイアログボックスを表示することもできます。

[表示] メニュー (Cover Sheet Editor)

カバーシートの表示状態（表示倍率、グリッド表示など）や、オブジェクトの表示に関わる設定（グリッドの適合、単位、全オブジェクト表示）を更新できます。

シート内で右クリックすると、関連する機能がポップアップメニューに表示されます。表示される機能は、右クリックする対象によって異なります。

[ページ幅基準] / [ページ全体]

カバーシートを、ページ幅に合わせて表示またはページ全体を表示します。

[ズーム] ▶ [ズーム] ダイアログボックス

カバーシートの表示倍率を指定します。倍率は1%単位で指定できます。

[グリッドを表示する]

グリッドの表示状態を切り替えます。

[グリッドのプロパティ] ダイアログボックス > [グリッドを表示する] でも同じように設定できます。

[グリッドに合わせる]

グリッドを適合するかどうかを切り替えます。

グリッドを適合すると、グリッドに合わせて、オブジェクトを移動したりサイズを変更したりできます。

[グリッドのプロパティ] ダイアログボックス > [グリッドに合わせる] でも同じように設定できます。

グリッドを適合した状態は、設定を変更したあとの編集に適用されます。変更する前に編集したオブジェクトには影響ありません。

[グリッドのプロパティ] ▶ [グリッドのプロパティ] ダイアログボックス

グリッドの種類、色、および間隔を設定します。グリッドの表示状態やグリッドを適合するかどうかも設定できます。

[グリッドを表示する]

グリッドの表示状態を切り替えます。

[種類]

グリッドの種類を選択します。

[色] ▶ [色の設定] ダイアログボックス

グリッドの色を設定します。現在の色をクリックするとダイアログボックスが表示されます。

新しい色を作成することもできます。

[間隔]

水平方向と垂直方向のグリッド間隔を指定します。グリッド間隔の単位は、[表示] メニュー > [単位] で設定できます。

[グリッドに合わせる]

グリッドを適合するかどうかを切り替えます。

グリッドを適合すると、グリッドに合わせて、オブジェクトを移動したりサイズを変更したりできます。

[標準に戻す]

グリッド属性に関する設定値を初期値に戻します。

[単位] ▶ [単位の設定] ダイアログボックス

オブジェクトの位置やサイズを表す基本単位を設定します。

ダイアログボックスの [全適用] をクリックすると、[単位] の設定内容が、開いているすべてのカバーシートに適用されます。

[全オブジェクト]

カバーシートの用紙サイズより外側にあるオブジェクトを、表示または非表示にするよう切り替えます。

[ツールバー] / [ステータスバー]

ツールバーまたはステータスバーの表示状態を切り替えます。

[挿入] メニュー (Cover Sheet Editor)

カバーシートに、イメージ、テキストボックス、および各種フィールドを挿入できます。

シート内で右クリックすると、関連する機能がポップアップメニューに表示されます。表示される機能は、右クリックする対象によって異なります。

[イメージ] ▶ [開く] ダイアログボックス

ビットマップ形式 (.bmp) のイメージファイルのカバーシートに挿入します。

[開く] ダイアログボックス > [プレビュー] をクリックすると、指定したイメージファイルのプレビューが表示されます。

[開く] ダイアログボックスまたは [プレビュー] ダイアログボックスの [開く] をクリックすると、選択したイメージファイルがカバーシートに挿入されます。

挿入したイメージのサイズは、選択したときに表示されるハンドルをドラッグすると、変更できます。

[テキストボックス]

テキストボックスをカバーシートに挿入します。

挿入したテキストボックスの内側をクリックすると、テキストを編集できる状態になります。

テキストボックスのサイズは、選択したときに表示されるハンドルをドラッグすると、変更できます。

[送信元の情報]

送信元情報としての各フィールドを挿入します。すべてのフィールドをまとめて挿入することもできます。

挿入したいテキストボックスを編集状態にするか、メニューを選択して作成されるテキストボックスに挿入してください。

[名前] / [ファクス番号] / [会社名] / [部署名]

各フィールドを挿入します。

[全情報を一括で挿入]

送信元情報のフィールドをまとめて挿入します。

[相手先の情報]

相手先情報としての各フィールドを挿入します。すべてのフィールドをまとめて挿入することもできます。

挿入したいテキストボックスを編集状態にするか、メニューを選択して作成されるテキストボックスに挿入してください。

複数の相手先情報のフィールドを挿入する場合の繰り返し指定も設定できます。

[名前] / [ファクス番号] / [会社名] / [部署名]

各フィールドを挿入します。

[全情報を一括で挿入]

相手先情報のフィールドをまとめて挿入します。

[繰り返し始め] / [繰り返し終わり]

複数の相手先情報のフィールドを挿入する場合、繰り返しの始めと終わりを示すフィールドを挿入します。

[区切り線] ▶ [区切り線の設定] ダイアログボックス

複数の相手先情報のフィールドを繰り返し指定ありで挿入する場合、相手先ごとに区切り線を挿入するよう設定できます。

挿入する区切り線の種類、幅、および色を設定できます。

[送信枚数] / [注目ラベル] / [コメント]

各フィールドを挿入します。

挿入したいテキストボックスを編集状態にするか、メニューを選択して作成されるテキストボックスに挿入してください。

関連項目

- ▶ [カバーシートのフィールドとは \(P. 90\)](#)
- ▶ [複数の相手先情報をカバーシートに表示する \(P. 91\)](#)

[描画] / [レイアウト] メニュー (Cover Sheet Editor)

カバーシートに描画オブジェクトを描くことができます。また、オブジェクトについて、グループ化したり、配置や整列状態を変更したりすることもできます。

シート内で右クリックすると、関連する機能がポップアップメニューに表示されます。表示される機能は、右クリックする対象によって異なります。

[描画] メニュー

[直線] / [四角形] / [角丸四角形] / [楕円]

各描画オブジェクトを描きます。

[Shift] キーを押しながらドラッグすると、水平/垂直線、正方形、円などを描画できます。

描画したオブジェクトのサイズは、選択したときに表示されるハンドルをドラッグすると、変更できます。

角丸四角形の半径は、内側にあるハンドルをドラッグすると変更できます。内側のハンドルをドラッグするには、オブジェクト選択を解除したあと再度選択してください。

[レイアウト] メニュー

[グループ化] / [グループ解除]

複数のオブジェクトをグループ化したり、グループを解除したりします。

グループ化したオブジェクトは、まとめて移動、コピー、サイズ変更したり、グループ内にあるすべてのオブジェクトの属性を一度に変更したりできます。

[最前面へ移動] / [最背面へ移動] / [前面へ移動] / [背面へ移動]

複数のオブジェクトが重なっている順序を変更します。

目的のオブジェクトが隠れて選択しにくい場合は、[Tab] キー、または [Shift] と [Tab] キーを同時に繰り返し押し、選択オブジェクトを切り替えてください。

[左右揃え] / [上下揃え]

複数のオブジェクトを、指定した方向に揃えて配置します。

最後に選択したオブジェクト（ドラッグして複数のオブジェクトを選択した場合は最前面にあるオブジェクト）を基準にして配置されます。

This Font Software is licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1.

This license is copied below, and is also available with a FAQ at: <http://scripts.sil.org/OFL>

SIL OPEN FONT LICENSE Version 1.1 - 26 February 2007

PREAMBLE

The goals of the Open Font License (OFL) are to stimulate worldwide development of collaborative font projects, to support the font creation efforts of academic and linguistic communities, and to provide a free and open framework in which fonts may be shared and improved in partnership with others.

The OFL allows the licensed fonts to be used, studied, modified and redistributed freely as long as they are not sold by themselves. The fonts, including any derivative works, can be bundled, embedded, redistributed and/or sold with any software provided that any reserved names are not used by derivative works. The fonts and derivatives, however, cannot be released under any other type of license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the fonts or their derivatives.

DEFINITIONS

"Font Software" refers to the set of files released by the Copyright Holder(s) under this license and clearly marked as such. This may include source files, build scripts and documentation.

"Reserved Font Name" refers to any names specified as such after the copyright statement(s).

"Original Version" refers to the collection of Font Software components as distributed by the Copyright Holder(s).

"Modified Version" refers to any derivative made by adding to, deleting, or substituting -- in part or in whole -- any of the components of the Original Version, by changing formats or by porting the Font Software to a new environment.

"Author" refers to any designer, engineer, programmer, technical writer or other person who contributed to the Font Software.

PERMISSION & CONDITIONS

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Font Software, to use, study, copy, merge, embed, modify, redistribute, and sell modified and unmodified copies of the Font Software, subject to the following conditions:

- 1) Neither the Font Software nor any of its individual components, in Original or Modified Versions, may be sold by itself.
- 2) Original or Modified Versions of the Font Software may be bundled, redistributed and/or sold with any software, provided that each copy contains the above copyright notice and this license. These can be included either as stand-alone text files, human-readable headers or in the appropriate machine-readable metadata fields within text or binary files as long as those fields can be easily viewed by the user.
- 3) No Modified Version of the Font Software may use the Reserved Font Name(s) unless explicit written permission is granted by the corresponding Copyright Holder. This restriction only applies to the primary font name as presented to the users.
- 4) The name(s) of the Copyright Holder(s) or the Author(s) of the Font Software shall not be used to promote, endorse or advertise any Modified Version, except to acknowledge the contribution(s) of the Copyright Holder(s) and the Author(s) or with their explicit written permission.
- 5) The Font Software, modified or unmodified, in part or in whole, must be distributed entirely under this license, and must not be distributed under any other license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the Font Software.

TERMINATION

This license becomes null and void if any of the above conditions are not met.

DISCLAIMER

THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFTWARE.